

第 5 回 東京玉翠会

○ ○
一、開会の辞 司会 柄越将康 (昭和38年卒)

一、東京玉翠会会長挨拶 平井健吉 (大正7年卒)

一、議 事

1. 報告事項

(1) 庶務報告

(2) 会計報告

(3) 監査報告

2. 審議事項

(1) 役員改選の件

一、来賓挨拶

玉翠会会 長 綾田 整治 氏
学校代表 高松高等学校長 松 繁 壽 義 先生

一、来賓のご紹介

一、懇親会次第

1. 乾杯

2. 一合まいた(踊り)

3. 福引

4. 母校図書購入資金贈呈

5. 校歌斉唱

6. 次回総会担当幹事紹介 (昭和39年度卒)

7. 万歳三唱

一、閉会の辞

○



とき 昭和62年 6月20日(土)
午後5時~7時30分
ところ 赤坂プリンスホテル
クリスタルパレス

(大正4年9月制定)

高松中学校校歌

作詩 藤井 静夫
作曲 安田 俊高

1. 朝日輝く屋島山

小波寄する玉藻浦

平和漲る其の響

生氣溢る、其の光

我が学舎に充ち満ちて

いそしむ健児一千餘

2. 御稜威と共にいや高く

朝夕あふぐ碑は

日嗣の皇子の行啓の

千代に朽ちせぬ記念なる

奮闘努力の健男児

ゆめな忘れそそのかみを

3. 巖冬霜雪色かへぬ

紫雲の松を名に負へる

我が中学の健児等よ

堅忍不撓功遂げて

屋島山頭いや高く

名誉の旗を緘へせ

あーさひ かがやく やしまやま さざなみ よする
たまもう ら へーいわ みなぎる そのひびき
せーいさ あふるる そのひかり わがまな びやにー
みちみちて いそしむ けんじ いっせん よ
ひるー が え せ

(大正3年9月14日制定)

高松高等女学校校歌

作詩 小原 虎一
作曲 内藤 蝶

1. みれども飽かぬ
玉藻の浦
千尋の底に
しづくなる
その白珠の
麗はしき
清き心をみがかん
みがかんをとめわれ

2. 朝夕仰ぐ
屋島の山
峰の上はるかに
ならび立つ
その山松の
色かへぬ
高さ操を守らむ
守らむをとめわれ

3. 開くる御代の
幸おほき
身にはつとめも
さはなれば
うら若き日を
たゆみなく
をみなの業を習はむ
習はむをとめわれ

4. いや蔡えゆく
皇國の
生ける効ある
御民ぞと
仁慈あまねき
大君の
みこと畏み盡さむ
盡さむをとめわれ

The musical score is written in 6/8 time with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line. Dynamic markings include *mp* (mezzo-piano), *mf* (mezzo-forte), and *f* (forte). The score includes a first ending (1. 2.) and a second ending (3.) leading to a *D.S. al Fine* section.

(昭和26年12月17日制定)

高松高等学校校歌

作詞 河西 新太郎
作曲 芥川 也寸志

1. 世紀新たな 陽に映えて
朝雲匂う 屋島山
おお眉清き 若人が
向学の念 揺ぎなく
澆刺拳る 意気を見よ

2. 平和かがやく 波よせて
鏡と澄める 玉藻浦
おお純潔の 若人が
真理の道を 究めゆく
独立自主の 熱意見よ

3. 仰ぐ紫雲の 松風に
雪持笹の さみどりに
おお希望わく 若人が
自由と愛の 血に燃ゆる
わが高松高校の 自治を見よ

朝日輝く(校友会の歌)

1. 朝日輝く屋島山

さざ波寄する玉藻浦
平和みなぎるその響き
精気あふれるその光
我が学舎に満ち満ちて
いそしむ健児一千余

2. 厳冬霜雪色変えぬ

紫雲の松を名に負える
我が嵩高の健児らよ
堅忍不撓功遂げて
屋島山頭いや高く
名誉の旗をひるがえせ

Combric ♩=108

せいぎ-あらたな ひにはえて
あまぐもにおう やしまやま おまゆきよき わこう-どが
こうかくのねん ゆるぎなく はつらつこそ るい
きをみよよ
あまひかが やくやし-まやまき
がなみよ-するたまもうらへ
いわみながるそ の-ひびきせ
い-るあふるるそ のひかり-
わがまなびやにみちみちていそ しむけんじ
いっせんよ

目 次

ごあいさつ (学校長あいさつ).....	1
昭和61年度収支計算書 (監査報告).....	2
特 集 母校近況.....	3
生徒会雑感 (第75代生徒会長 福家秀樹).....	3
食堂レポート'87 (第75代生徒会).....	5
勤労体験学習 手打ちうどん.....	7
(高松高校職員 柘植真理子)	
(高松高校3年1組 合田 晃)	
(高松高校3年1組 岡本加奈子)	
文化部紹介 (第75代生徒会).....	9
運動部紹介 (第75代生徒会).....	11
母校概要.....	13
寄 稿 高中時代の思い出 (高中大正7年卒 津坂宗一).....	14
一病息災 (昭和38年当時数学科 林 政治郎).....	16
近況報告 (高松高校英語教諭 中野 昭).....	18
思い出すことども (昭和38年当時社会科 大貫芳雄).....	20
めぐり逢い (高女昭和16年卒 内田信子).....	22
菊地 寛の思い出 (高中昭和16年卒 藤井 勲).....	24
鉛筆の芯—村尾清一氏のこと—(I.F.記).....	29
スポーツ雑記 (高高昭和38年卒 重松 麓).....	33
二つの母校 (高高昭和25年卒 平井卓志).....	35
地元三八会の近況 (高高昭和38年卒 新藤勝利).....	36
第五回東京玉翠会総会幹事を担当して.....	37
編 集 後 記.....	38
東京玉翠会会則.....	39
東京玉翠会役員候補者名簿.....	42
寄贈図書目録.....	48
商品寄贈会社.....	49



ごあいさつ

香川県立高松高等学校
校長 松 繁 壽 義

このたび、教職員の異動により、高校高等学校長を拝命いたしました松繁でございます。90年余に及ぶ長い歴史と輝かしい伝統を持つている本校におきまして、学校運営の任に当たることになり、その責任の重大さを痛感しているところであります。

ご承知のとおり、現在本校におきましては新体育館の建設が進められております。柔剣道場として使用されている第2体育館は、昭和13年に建てられ、当時としては最も進んだ建築技術とモダンな様式は世人の関心をよんだと伺っておりますが、最近では老朽化が進み、新しい柔剣道場が望まれていたところであります。また第2体育館は、昭和28年の国民体育大会のバスケット会場としても使用された由緒ある建物であります。全校生徒約1600名が一同に会する場としてはあまりにも狭隘になっております。

こうしたことから新体育館建設の運びとなったわけですが、工事も順調に進捗し本年12月末には2階建て体育館が完成する予定であります。竣工の晩には同窓生の皆様方にもぜひご高覧下さるようお願い申し上げます。体育館ステージに設けられます緞帳は、皆様方の格別のご好意によりまして、高松高校にふさわしい、また生徒にとってよき思い出となるような図柄が考慮されております。

本年度の大学等への進学状況につきましては、入試改革元年とも呼ばれ、新方式による選抜が実施されましたが、予想を上回る多数の合格者を出し、名門校としての地位を保つことができました。本年度も職員一同心を新たにして努力いたす所存でございます。

同窓会の皆様方におかれましては、今後とも母校に対する変らぬご厚情とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに東京玉翠会のますますのご発展を祈念して、就任のごあいさつに代えさせていただきます。

昭和61年度収支計算書（案）

自 昭和61年4月1日
至 昭和62年3月31日

東京玉翠会
会長 平 井 健 吉

〈特別会計〉

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
会場使用料	5,304,300	総会出席会費	4,670,000
会場運営費	955,510	男子 412人	
総会準備費	1,870,497	女子 313人	
母校寄付金	150,000	寄付金収入	322,870
		雑収入	2,995,800
		一般会計よりの受入金	291,637
合 計	8,280,307	合 計	8,280,307

〈一般会計〉

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
支部交付金	251,300	前期繰越金	4,026,796
会議費	52,260	年会費	611,000
通信費	21,190	預金利子	124,976
事務用品費	3,920		
慶弔費	10,000		
特別会計への繰入金	291,637		
次期繰越金	4,132,465		
合 計	4,762,772	合 計	4,762,772

次期繰越金

内訳 (イ) 百十四銀行東京支店			
普通預金	No.125044	251,434円	
通知預金		500,000	
定期預金	満期62.5.6	1,650,127	
定期預金	満期62.10.8	1,141,224	
定期預金	満期62.10.8	500,000	
(ロ) 手持現金		89,680	
		(4,132,465)	

脚注 東京高中会並に晩翠会東京支部よりの受入基金1,500,000円は、上記定期預金にて運用されています。

上記収支計算書について監査の結果、適正なることを認める。

昭和62年5月21日

監事 松 田 和 光 ㊟
同 鷹 尾 律 子 ㊟

***** 特集 母校近況 *****

生徒会雑感

(第75代生徒会長) 福 家 秀 樹

私は60年12月の再選挙により、会長となり現在、任期の終了する5月15日まで部活、勉強、生徒会活動を三立(?)させるべくがんばっています。なぜ再選挙なのか?実は、近年(ほとんど慢性化していますが)生徒会は、一般生徒の無関心のためにほとんど沈没しそうなのです。先輩方の中にも、生徒会(自治会)で活躍された方がたくさんいらっしゃると思います。歴史ある高々生徒会を現在のよう状態にしてしまっ

て責任を感じています。そうはいつでも、ここ2~3代の生徒会は建て直しを図ると共に、活発に活動しています。現代的になったというのか、イベント的なものを学校内で主催したりしています。“フリーマッチ”というのがその良い例で、御存知の「アメリカ横断ウルトラクイズ」を「校内横断」ともじって開催したりしています。期間中の昼休みは、全校生の興味と関心はバドミントンコートに集中します。フリーマッチには他に、オープン参加の卓球大会、バドミントン大会などがあります。クールな最近の高々生もこの時ばかりは熱くなり、思わず「青春」という言葉を思い出します。

高々生が熱くなると言えば、クラスマッチも忘れてはなりません。一学期末、三学期末と、いずれも期末考査終了後の沈みきった高々生がハツ当たりするためか、高々はこの期間狂騒状態に陥ります。

もちろん、体育祭も健在です。去年は久しぶりに屋島陸上競技場で行われました。先生方の本性をむき出しにされた借りもの競争、闘いの場である屋島も一瞬和んだ民謡(もちろん浴衣姿でした)など、今でも目を閉じるとその情景が浮かんできます。今年は、例年のように河川敷の広大な土地をいっぱい利用して開催されることが決まり、着々と準備が進んでいます。

さて、高々最大のイベントといえば、なんといっても文化祭でしょう。毎年、高々

生はこの時期が来るのを首を長くして待っています。この学校をあげてのお祭りは、高々生の最も楽しい時期でしょう。また、この日をキッカケとして生まれるロマンスの数は、修学旅行時と双璧です。しかしお祭りお祭りと騒ぐばかりでは「文化祭」の名が泣きます。日ごろおとなしい文化部もこの時ばかりは主役となり、すばらしい展示を行います。我が生徒会も、40年近い生徒会の歴史を掘り起こすため、膨大な資料をあさって、「歴史 of 生徒会」という大展示を行い、先生方、OB、また一部の生徒の絶賛を受けました。今年も、また文化祭に向けて生徒会も動き出しました。すばらしい文化祭を目指しますので、先輩方、是非おこし下さい（ちなみに9月下旬開催予定です）。

さて、今まで生徒会活動ばかり書き連ねてきましたが、肝心の現在の高々生気質はどんなものでしょうか。それは、「食堂レポート'87」や部活動紹介、また先ほど述べた生徒会の現状などをあわせて類推して下さい。私も知らぬ間にもう三年生となってしまう、受験の圧迫におのきつつも、高々生としての自覚を持たねばと思うようになりました。90年余りという歴史の重みをひしひしと感じます。全国で活躍されている先輩方が、この東京玉翠会のように強いつながりを持っているというのは新鮮な驚きでした。

ところで、先輩方の中には生徒会役員を経験された方が多くいらっしゃると思います。そういった方々、是非当時はこんな生徒会だった、というのをお教え願えれば光栄です。“歴史 of 生徒会”の完成に役立てたいと思います。

食堂レポート'87

第75代 生徒会

我々高校生の栄養源は、言うまでもなく、「骨までしゃぶれる親のすね」である。その上、親は、学生食堂でカレーを食べさせてくれる。なんと僕達は幸せなんだろう……。

食堂を利用する主な時間帯は三つほどあるのだが、やはり混むのは三限と四限の間の休憩である。15分という限られた休憩時間は、食堂利用の点では、短いことはあっても決して長いという人はいない。事実、(パンを買いにだけくるなら話は別だが)三限終了のチャイムが鳴り終わるか終わらぬうちに、生徒達は教室を我先にと走り出る。朝の始業直前と同様、最も慌しい時なのだ。

四階に教室がある生徒は、どれだけ遠く走っても、絶対的に不利である。息せききって食堂に辿り着いたとしても、もうそこには長蛇の列があるのみ。食堂のおばさん達が用意してくれている品数もそう多くないから、列の後ろの方は“足切り”をくわうことがある。せっかく列で待っていても“足切り”では困るから、他のメニューの列に“志願変更”をする人もしばしば見かける。運が悪いと、列に並んでから、商品を手に入れるのに、実に5・6分もかかる。そうしている間にも、残り時間は刻々と減る。それですんなりと食べればよろしいのだが、困ったことに、空席がない。どうしよう……。食堂の隅でカレーを立て食べている人もいる。席を待っている、完全に遅刻であるからして、立ち食いをする。それも急がねばならない。よく歯でかまずに、腹にカレーを飲みこんで、食器を返す。消化不良になるのも無理はない。そして、急いで教室に帰り、いざドアを開けたら、もう授業は始まっていたなんてことも……。

現在、食堂には、いつもあるメニューとし、日替りメニューがあります。

では、いつもあるメニューの方から、現況を報告します。

【うどん】

④と⑤がある。値段は④が80円（県下の高校の中で一番安い）、⑤が150円です。具は、④がおあげとかまぼこが一個ずつ入っています。⑤はそれらが2個ずつ。また夏になると、冷しうどんもできます。

ただ、うどんにいまいちコシがなく、生徒間では不評ですが、安価なため、多くさばっています。またカレーうどん（④が120円、⑤170円。）もあり、比較的需要があります。

【カレーライス】

200円。具は、玉ねぎ、じゃがいも、人参、肉などが入っていますが、玉ねぎばかり入って、肉がない、と巷では不評の様。カレーうどんについては、カレールーを、うどんにかけるだけなので、カレーと同じ感想です。

【そうざい】

まずは、わかめ(20円)、玉子(30円)、天ぷら(60円)、いなりずし(80円)、おむすび(100円)。わかめは勿論うどんの具であるが、玉子はその他にカレーに落として食べる人もいます。天ぷらは、うどんの具、あるいはおかず。いなりとおむすびは、うどんと組合せて食べる人が多いようです。

今度は、日替りメニューの紹介。

【チキンライス】(Mon)

200円。スープが付いています。味はまあまあ良い味であります。

【親子丼】(Tue)

200円。具としては、玉子、とり肉、人参、玉ねぎが入っています。味は、少し甘口の様な気がします。

【カツカレー、カツ丼】(Wed)

水曜日は、カツカレーと、たまに、カツ丼が出てきます。値段は、どちらも250円です。

カツカレーは、巷では、カツが薄く、衣ばかり厚い、と不評の様です。併し、いつも長い列ができるメニューです。

カツ丼は、たまにしか出てこなくて、カツカレーの方に生徒は流れるので、結構楽にありつくことができます。

【定食】(Thu)

人気が高い。しかも夏になると冷めんになり、たまに、ちらしずしがお目見えする。値段はいずれも250円。

定食は、週によって、唐揚げ、コロッケ、ヒレカツ、トンカツ、オムレツの各定食があります。また、どの定食にもサラダとキャベツのせん切りがもり付けられ、みそ汁がつきます。味は最高。だから列も長く、競争率も高い。会長選挙の質疑の際に“定食問答”などが出てくる始末。「足切り」も注意が必要。

【焼飯】(Fri)

200円。スープ付。このメニューは、とり飯に代わって最近お目見えしたものです。

【とり飯】(Sat)

150円。スープ付。おぼさんのつぎ加減によって、とりの量の多少が決まります。「ごんな」のとり飯とは雲泥の差の味、と言われるほどだが、安いのだから仕方なし。

その他、食堂では、パン類、ジュース、牛乳といった物もあります。

総合的に見ると、値段は比較的安い。味には不満多し。また、メニューを増やして欲しいという意見もあります。

新体育館の建設で、食堂には日光が入ってこなくなり、少し暗くなった様ですが、今も昔も生徒の食欲は変わらないでしょう。

最後に、乱文乱筆になったことをお詫び致します。

勤労体験学習

手打ちうどん

高松高校職員 柘 植 真理子

高松高校は、昨年、今年と二年間、文部省の勤労体験学習指定校として様々な実践活動を行ってきた。その一貫として、昨年に引き続き本年も11月22日「一日入門体験学習」が2年生490名の参加で行われた。「一日入門体験学習」は、高等技術学校・図書館・動物園等、各種の職場にて一日その道のエキスパートのご指導を受け、体験を通じて勤労を学ぶ目的で行われている。

この手打ちうどんコースも、香川大学農学部教授の真部先生に、「うどんの歴史」について講義をして頂き、実技指導は水車主人の谷さんをお迎えして本校食物室で行われた。参加生徒、男子20名、女子10名、計30名は先生方の熱心な御指導により、改めて香川県の郷土食である讃岐うどんのよさを感じたようだった。

先生方は事前に準備を入念に下さった。真部先生は大変貴重なスライド・プリント・標本等用意して下さい、谷さんは麺作りの道具一切、そして讃岐でとれた「地粉」と輸入小麦粉「特雀」を持参して、両者の比較まで御指導下さった。

生徒達ははじめて挑戦する「手打ちうどん」に強い興味・感心を持って臨み、積極的に活動していた。日頃、受験勉強で机に向かっている事が多い生徒、特に調理した事がない男子生徒たちも、体を使ってうどん作りという新しい経験に目を輝かし、ほとんどの生徒がもう一度家で作ってみたいと、楽しく実りある一日であった。

ここで当日参加した生徒の感想を紹介したいと思う。

3年1組 合 田 晃

ぼくは、この勤労体験学習を通じて、うどんについて知識を得、また考えさせられた。中でも、うどんの元になる粉については真部先生の講義を受け大変興味を持った。僕達は、讃岐でとれた粉と、輸入した粉の両方でうどんを作ってみた。確かに見た目は粉の色が少し違っていたが、味はそれほど違わないだろうと思っていた。ところが、食べてみて驚いた。別の食べ物かと思うほど違いが感じられた。自分としては、食べ

慣れた輸入した粉で作ったうどんより、讃岐の粉で作ったうどんの方が、新鮮で歯応えが良かったと思う。また機会があれば、ぜひ食べてみたいものだ。それと、講師として来て下さった谷さんという方が素晴らしい人だった。とても熱心に指導して下さい、誠実な感じを受けた。僕ももう将来をかんがえなければいけない時期だが、谷さんのように自分の仕事に誇りを持てるように努力したいと思う。

3年1組 岡本 加奈子

鍋焼き、釜揚げ、煮込み、ざる … 具によっては、月見、かやく、きつね … など、うどん料理の種類を挙げれば限りがない。また味付けも、味噌味にしたり、醤油味にしたり、時には牛乳で煮てみたり、といくらでもそのレパートリーは広がっていく。

今回の講習で、うどんが小麦粉と水と食塩だけで作られているのを知ったのは、私にとっては新鮮な驚きだった。また、その配合も季節によって違うというのは意外であった。

素朴で、かつ材料の特徴が最大限に生かされた味だからこそ、うどんは様々な人に愛され、いろいろに食されてきたのだろう。実際、谷さんは、実習室の部屋の状態まで考えて、その配合を教えてくださいました。

経験と勘によって伝統の味を支えていくことは機械にはできない。うどんという、すぐスーパーの袋入りを購入してしまう私たちだが、讃岐人である以上、各家庭に“うどん作りの秘法”ができるほどにそれを普及させ、私たちがこの伝統を受け継いでいくことができれば素晴らしいだろうと思った。

(さぬきうどん研究会 会報第2号60年5月発行より転載)

文化部紹介

第75代 生徒会

文化部紹介。現在高松高校には、推定26の文化部が存在しています。

音楽部(TMC)、美術部、文芸部、地学部、生物部、書道部、語学部(ESS)、理学部、家政部、茶華道部、図書部、写真部、映画鑑賞同好会、手話サークル、漫画同好会、囲碁同好会、リコーダーサークル、映像同好会、軽音楽部、そして直轄部である新聞部、吹奏楽部、応援団、放送部。

こうして列記してみると、頭数だけは揃っているように見えますが、実際の活動状況においては何をやっているのか分からない、いつやっているのか分からない、果たして存在しているのかどうかこれまた分からないといった幽霊部がほとんどです。まあ、今に始まった話ではないだろうし、また他の高校も恐らくは同じ状況であろうと思いますが(そうとでも考えなければあまりにも情ない)。

文化部がなぜ昼の舞台上で活躍することができないか。一つには生徒の中に、部活動に所属していることが一種のファッションだと考える風潮がある(らしい)ということが原因として上げられると思います。最初から何をするつもりもないのに、名前だけは入れておく一言わゆる幽霊部員ですが、その名の通りこれは文化部に慢性的にとり憑いて、生気を奪っているのです。しかもこの幽霊部員という言葉は口実としても使える便利さを備えている。——「お前何で部活に出てこんのだ」、「だって僕幽霊部員だもん」、「ちゃんと部の仕事をやってくれ」、「何で幽霊部員がそんなことせなあかんのだ」—— こういう具合です。

このような雰囲気があるせいで、文化部の活動は地道を走らざるを得ません。たとえ少壮の部員が活動を起こそうとしても、人数が集まらず、企画倒れとなるのがオチです。そのため文化部の活動は普段は全く明るみには出ず、ブラックボックス化しています。

例をあげていくと —— ほとんどの人は映像同好会と映画鑑賞同好会の相違が分かっていない。高松高校新聞は廃刊の噂まで流れている。写真部は写真クラブの先生にまで廃部だと思われていた。また一時期、勇気ある一部の生徒たちによって「ゲー

ム部」なる新しい部（詳細は不明）が誕生し、顧問もついたらしく、「これはレポリューションだ」と人々をして感嘆せしめたが、いつの間にかその名は完全に生徒会の記録から抹消されてしまった。

悲惨と言わざるを得ないような話をつらつらと書いてきましたが、これが文化祭になると状況は逆転、文化部は断然精彩を放ちます。

補習科の教室で異様に場違いな盛り上がりを見せる軽音楽部のコンサート。市内の電気店で大型テレビなどの機材をを借りてきて絢爛豪華に行われる放送部の「サテライト・スタジオ」。第1体育館を感動のつぼと変える演劇同好会。夏休み前から、既に撮影を市内各地で始めているのは映像部。生物部は水族館（ハムスターまでいる。！）と化し、地学部は一回公演する度にプラネタリウムが壊れる。しかも蒸し暑い。鉄道模型が部屋のまん中で爆走する光景にまず呆然となる鉄道研究会。扇の舞を披露する他、前夜祭のオープニングで場を盛り上げる応援団。文化祭は文化部の活動の実態を知る数少ない機会の一つです。こうした公の目に触れる活動をもっと増やせば、文化部ももっと色気が出てくると思うのですが。

すっかり愚痴みたいになってしまいましたが、「文化部では青春を謳歌することはできない」と思われ続けているのはあまりにも悔しい。文化部だって着実に成績をあげているのです。

音楽部 —— 第53回NHK合唱コンクールにおいて優秀校となる。

語学部 —— 高松短大で催された近県高校弁論大会のスピーチ部門で、優勝者が出る。

吹奏楽部 —— 全日本吹奏楽コンクール香川県大会で金賞を受賞。

書道部 —— 学書展で読売賞・県議会长賞入賞者を出す。

放送部 —— 第32回NHK杯全国高校放送コンテストの全国大会で第3位。

囲碁同好会 —— 第10回全国高校囲碁選手権大会の全国大会女子個人戦でベスト8入賞者が出る。

文化部だってやる時はやるのです。

我々は文化部であることをもっと誇りに思ってもいいはずですが。そうなれば、文化部の活動にも活気が出てくると思います。部員達一人一人の地道な努力が、「文化部における青春」の証あかしとなる —— 我々はそれを信じています。

運動部紹介

第75代 生徒会

1987（昭和62）年度生徒会予算総計4,733,798円。そのうち1,720,500円が運動系の校友会（部・同好会）にあてられています。現在活動している運動系校友会18のうち、最も多いヨット部の部費は206,000円。逆に最も少ない水泳部は36,000円。しかし、大半の部・同好会の校友会費は10万円前後で、文化系の校友会の多くが5万円以下なのに比べれば、多い方です。

それでも「うちの部はこんなに使わないから減らしてくれ」と言う声は聞いたことがありません。実際、生徒会で割り当てられた金額では間に合わず、独自に1人ひと月？円を集めている校友会もあります。（ちなみに、僕の所属していたバドミントン部でも、ヨット部に次ぐ年間204,000円の部費を貰ってもシャトル〔いわゆる“羽根”〕代が足りず、ひと月1,000円の部費を集め、さらに〇〇大会の前には「大会に持っていくシャトルが無いけん1人1,000円の一」などと部長が讃岐弁で叫ぶのでした。）こんな風なので、予算を決める時には、「もっとふやしてくれ〜」とどの校友会の理事（部長・同好会長）もわめくのです。

予算のことから紹介をしてきましたが、“運動部”と言って思い浮かべるのはやはり厳しい練習です。これだけの予算がつけられている運動系の校友会の日頃の練習状況はどうなのか、わかる範囲でただらだと書いてみようと思います。

普通の日、午後3時10分に授業が終わり、掃除等が終わって練習が始まるのは午後3時半頃、下校時刻が4月から9月までは午後6時、10月から3月までは午後5時半ですから、その間の約2時間半、あるいは2時間の僅かな時間（それも“課外”のある日は1時間少なくなる）が練習の時間です。その内容は大きく分けて2種類あります。1つは走ったり筋力トレーニングをしたりという基礎体力づくり。もう1つは基本的な動きの練習から応用的な動き、さらには試合形式の練習などその競技特有のテクニックや勘を高めるもの。後者も手先でヒョイヒョイと出来るものではないのでやはり苦しく疲れますが、前者はただ“えらい”だけのようなもので、苦しむためにやっているような錯覚に陥ります。しかし、どの競技にしても体力が無ければテク

ニックや勘は成り立ちませんし、試合に勝てるはずもありません。ひたすら、何も考えずに（考える余裕が無い）“山”（学校をスタートし近くの紫雲山・峰山を走るコース）や“海”（同じく学校から大的場）を走り、山頂の峰山公園または大的場の砂浜で「腕立て伏せ」に「腹筋」に「背筋」に「ダッシュ」に負けたチームには罰がある「リレー」等をして、学校に着いた時には水も飲めないほど疲れている—（いつもそんなにハードな練習をしている訳ではありませんが）そんな練習の時には、強くなるためだと頭では分かっている、練習が嫌になります。それでも真面目に練習をするかどうかは、結局、その人次第です。学校自体がもともと狭く、小さな体育館、悪い設備に恵まれた上に現在行われている新体育館工事のためグラウンドが使えず、環境は救いようの無いほどです。

昨年の第26回香川県高等学校総合体育大会の学校対抗（一昨年から復活、様々な競技の総合で決まる）で我が高松高校は男子3位、女子6位という成績を修めました。それは勿論それぞれの校友会が持てる力を出し切った結果得られたのです。厳しい勉強との両立の中ではありますが、運動系の校友会は厳しい練習を乗り越えて今年も素晴らしい成績を残してくれるでしょう。

母 校 概 要

(1) 職員数

	全 日 制	定 時 制	通 信
校 長	1		
教 頭	2	1	1
教 諭	76	4	6
講 師	5	1	1
実習助手	2		
養 護	1		
事務部長	1		
主 査	3		
主 事	2		
主任技師	2		
技 師	1		

(2) 生徒数

全日制課程

	1年	2年	3年	計
男	297	305	320	922
女	204	241	213	658
計	501	546	533	1,580

定時制

	1年	2年	3年	4年	計
男	9	1	3		13
女	7	4	2	4	17
計	16	5	5	4	30

通信制

	1年	2年	3年	4年	特科	併修	計
男	25	75	56	48	12	1	217
女	23	27	28	12	37	0	127
計	48	102	84	60	49	1	344



寄稿

高中時代の思い出

(高中大正7年卒 大正13年から昭和17年まで教員) 津坂宗一

私は、高中時代といえば、生徒として在学していた時代と教員として勤務した時代と両方ありますが、今回は、前者の思い出を書きましょう。

何といっても、70年前の記憶を呼び起すわけですので、思い出せないこともあります。若い頃の印象、記憶は、比較的確実に辿れるようですので、私の高中生時代の学校生活の一端をご披露といは、はばったいので、告白と致しましょう。

当時の学校長は、御手洗先生、教頭は、田鶴浜先生、そして、篠塚先生、安永先生、泉川先生、篠原先生、森先生、藤井先生、柴山先生、深津先生、伊藤先生方に教わりました。どの先生方も生徒のためには、自分を省みないで、専念指導、教育に尽して下さったことは、感謝の至りでありますと同時に、現在迄の大学入学率向上の基礎となったわけです。通学服装は、間島洋服店製の制服と制帽と決っていました。家庭へ帰ってから外出する際は、筒袖の和服、着袴が認められていました。学科目は、英語、数学と理科、国語と漢文、教練と体操が毎日必ずそれぞれ一つか、二つづつあり、武道は、剣道、柔道が共に必修科目として行われていました。

校則は、厳重で、映画館や飲食店への出入も禁止されておりました。これは、私が、教員になった大正13年から昭和10数年頃まで続いており、教員は、毎日交替で、市内の、映画館などへ見張りに行ったものです。

私は、自ら言うのもおかしいですが、実におとなしい、真面目な生徒であったようです。特に、法規、校則などを守ることは人一倍目立っていたようです。これは、一面には、私の父が裁判官でしたので、その家庭環境からもきていると思います。学校での成績は、一年生の時は、100何番代、二年生の時は、70番代、三年生の時は、10番代、四、五年生の時は、ベスト6に入りました。そして、三年生の時は、副組長、四、五年生の時には、組長を務めました。当時の正、副組長の決定は先ず各組で、全生徒による選挙をした上、校長が任命する制度になっていました。私は、三年生頃から、

毎学期組長選挙では、人気があって、成績では、私より上の生徒が居るのに、私に組長の票が多く入るのでした。特にいたずら生徒、悪い生徒と目されている連中が私に投票する傾向が強かったようです。これは、なぜか、不思議なようですが、考えてみると、私は、平素学校の友達と遊ぶのに、善い人間、悪い人間の区別をせず、誰とも同じようにつき合い、遊んだことによるのだろうかと思います。特に試験前には、成績の悪い連中が、私に勉強をみてくれというので、一緒に勉強することが例になっていたのに由ることもあるらしいです。最近、小、中学校で問題になっているような「いじめ」などということは、私の高中生時代には、思いもよらぬことです。学友は、皆均しく学友であって、善友、悪友を区別しないのが、当時の私ら高中生生活でした。階級的な時代に民主的生活をしていたわけです。

次に、学習と運動との関連について、当時の生徒達は、文武両道を守り続けていました。私は、ボート部員でしたので、毎日放課後は、いつも築港内の学校のボート繋留所へ行き、六人漕ぎボートを出して、沖へ漕いで行き女木島や玉島の先端岬などまで行って来て、帰宅、夕食をとると8時頃になります。それから後、夜半までが勉強時間でした。そして、どんなに疲れていても、毎日、翌日の科目(特に、英、数、国漢)の予習だけは、欠かしたことがありませんでした。

私が高齢まで、健康が続けていますのは、考えると、この高中時代のボート生活のお蔭かと思います。瀬戸内海の良い風光の中で、清い空気を吸い、一面のんびりと、一面強い運動(漕法)で鍛えられ、大自然の心に養われた結果だろうと感謝の心いっぱいです。

時には、沖の方の航路で、駆隊船と競漕してみたり、海上の逆流中を難漕したりして、難行、苦行も経験しました。これは意図的、計画的に行ったことです。こういう経験は、皆さんには、殆んどないことと思います。

特に、颱風のさ中、沖へボートを漕ぎ出す冒険もしました。連絡船が助けに来て、網を投げたのを、ことわって、帰らせ、颱風が去ってから帰ると、平気で漕ぎ続けた思い出は、一生忘れ得ぬことです。今なら、止める心を持ち、止める立場になるところですが、当時の高中生には、こんな一面もあったことをお伝えして、筆を擱きますが何だか自分史のような文章になりましたことは恐縮次第、何とぞご許容願います。

一病息災

(昭和38年当時数学科) 林 政治郎

街角で卒業生の方にお会いすることがよくある。最近、次の2通りのことばを掛けられることが多い。

「昔と少しもお変りになりませんか」

ということばと、

「少しお痩せになりましたね」

ということばである。

内容として、随分と隔たりのあることばであるが、どちらも私を的確に観察してのことばである。

「変りませんか」とことばを掛けて頂いた方には、「そうですか」と相槌を打ちながら昔話に花を咲かすことにしている。

「痩せましたね」とことばを掛けて頂いた方には、「いや、心筋梗塞を起しまして、救急入院やらバイパス手術やらで、10キロも痩せてしまいました」と前置きしながら四方山話をするにしている。

私の体形は、もともと、お義理にもスマートとは言えないものであるが、それでも、30歳までは、まあまあ普通であったように思っている。ところが、それ以後は余分な脂肪が体に付き始め、中年特有のスタイルになってしまっていたのである。ところが、2年程前に心筋梗塞の発作を起し、それを機に一気に減量し、若い時代の体形に戻ったのである。その意味で、卒業生の方とお会いしていない期間の長短によって、上記のような2通りのことばを掛けられるのである。

突然の発作で、勤務中に倒れ、救急車で病院に運ばれ、救急処置、絶対安静、面会謝絶と、初めての経験ばかりで、緊張の連続であったが、日数が経つに従って次第に落ち着きを取り戻し、健康について考えることが多くなった。

健康については、かなりの自信もあり、人に負けない健康だけが自分の取り柄と信じていた私にとって、この発病は大きなショックであり、始めは色々な妄想に苦しめられた。だがやがて、病氣と上手に付き合いながら生活することを考える余裕が持て

るようになった。何時までも青年期の体力を持続できるものではなく、年齢に応じた体への気配りの必要性を、遅延しながら気付いた次第である。

「一病息災」ということばの真意がわかったのもこの時であった。

「体の中のことは、外からなかなかわかりませんか」

という主治医のことばが、実感を伴って理解できたのもこの頃であった。

最近、40歳以上の人を化石人類と呼ぶようで、新人類から見れば、どうにもならない人間に見えるようである。かつて私が高松高校で教えていた頃、若さに溢れていた皆さんも、すでに殆どの方が化石人類と呼ばれる年代になっている。恐らく、仕事の面でも家庭の面でも、重い責任を背負いながら、多忙な毎日を送っておられることであろう。

「もともと健康だし、体のことを考える余裕なんかとてもとても……」といった状態であろうと思う。

しかし残念ながら、体の内部では徐々に老化が進行しているのである。目に見えない、体の内部の変化に十分な気配りを払いながら毎日の生活を過すべき年代になっているのである。

この紙面でしかお会い出来ない皆さんも多いが、全員の皆さんが健康で幸せな人生を送られるよう念ずる次第である。

(現 県立高松北高等学校校長)

近況報告

(高松高校英語教諭) 仲野 昭

18年ぶりに高松高校へもどってきました。4年前のことです。浦島太郎の様な心境でした。昭和40年に高高を去った時は31才、再びもどってきた時は49才でした。当時の先生はほんの2、3名、場所こそ同じでしたが、中もすっかり変わってしまいました。坂出、高松南(当時の香川高)、新しく鬼無町に出来た高松西高などを、まわってきました。

もう10年くらい前からPTAなどで、お母さん方から「昔、先生から英語を習いました。」と言われ出したのですが、この頃はお父さん方からも同じことを言われています。やがて、「家のおばあちゃんが先生から……」と言われることでしょう。

新学期が始まりました。音楽室からは、「世紀新たな陽に映えて 朝雲匂う屋島山……」が、春の風にのってきこえてきます。新入生に校歌を教えているのです。彼等にとっては、これから高高生活が始まるのです。27年前の諸君の姿です。つい2、3日前のことです。一年生の教室で、「日本では“兄”と“弟”と使い分けるが、英語ではbrother 1語しかない、どうしてなのか」とききました。1人が手をあげて答えました。「日本には家父長制が長く残っていたからです。」終って教室を出ようとする、2、3人の女子生徒のおしゃべりがきこえました。「あたし、全然違うことを考えてたわ」。「じゃ君は何って思ってたの?」ときくと、「だって、あの結婚の時ね、長男の人と結婚するのと、弟と結婚するのと、どっちが得かって考えるじゃない。」あとはもう、ケタケタころがる様に笑っていました。この3月まで、3年生を受け持って、複数受験とか、ボーダーラインとかで教師も生徒も血走っていたので、この新入生の明るい屈託のなさが、新鮮で、救われた様な気がしました。こういうところは27年前も今も変わらない、つまりは、青春の風景なのでしょう。

僕の最近のことを語ります。朝ジョギングを始めました。一宮に住んでいるので、郷東川がすぐ近くにありますが、その河原を20~30分程ゆっくり走ります。今は新緑が鮮やかで時々自分が自然の一部になったような気分がします。去年の夏のことでした。堤防の上^{かに}にいた1人のお年寄が、走って行く僕を見て、「兄さん、この暑いによ

るのー」と声をかけました。「あにさん」という言葉が僕の耳の中で、反響しました。帽子をかぶっていたので、もう大分薄くなった僕の頭部が見えなかったのです。それに気をよくして、冬の暗いうちを除いて何とか続いています。それと最近興味をおぼえたのが、bird watching。これはまだ始めたばかりですが、栗林公園で毎月1回、日曜日に、探鳥会といって鳥を見る会があります。ここで教員以外の人達と知り合う機会ができました。ここは、昔とあまり変わっていないようです。変わったのは、諸君が、夏の大会に応援に行った五番丁の中央球場、あれは取りこわされ、公園に生まれ変わりました。芝生が広がり、いろんな樹木も植えられています。朝夕の行き帰りにその中を通るのも楽しみの一つです。鳥も来るし、花も咲きます。東京でも、明治神宮や、高尾山で探鳥会をやっているはずですが、一度ためしに参加してみても。めったに上京しませんが、今度行ったら、大井野鳥公園というのへ是非行ってみようと思っています。20年住んでいた東京ですが、今になって、知らない所がたくさんあるのに気付いています。それにもう讃岐に居る年数の方が長くなりました。定年まであと7年くらいです。諸君のお子さんと同じくらいの生徒達と一日の大半をすごしています。

諸君は今働き盛り、仕事も子育ても大変な年頃だと思います。健康と多幸を心から祈ります。

思い出すことども

(昭和38年当時社会科) 大 貫 芳 雄

玉翠会の東京支部の方から会誌への投稿を依頼され、在任当時のことを思い出していただいたことに感謝しますとともに、私ごときものにと恐縮しております。

私が、生れ育った八王子西部の高尾から、はるばる「瀬戸」に乗って高松に赴任したのは今から25年前の昭和37年でした。その後の経済の高度成長の中で、東京も高松も大きく変貌したが如く、当時の在校生の皆様方も各界の中堅、リーダーとして大いに活躍なされていることと思います。

さて、新卒の少ない高々に、永濱君（今も高々在任）と福田君（埼玉県教員）の三人で赴任した我々は、三人で一人前とされ、比較的大目に見ていただき、自由な教員生活をスタートできたことに今もって感謝しております。勿論、教材研究についての厳しさも、その後のあり方に大きく影響を与えてくれましたが。

さて、最初にもったクラスが、詩人でもあった英語の葉原先生と受持った三年のいわゆる「芸専クラス」でした。それぞれ個性豊かな生徒の集団で、高々の中ではユニークな存在のクラスです。彼等が引き起す諸々の事について、当時の森教頭、畠山生徒指導部長からよく職員室で注意を受けたものです。世俗的なことの苦手な葉原先生が「大貫君、校長等に叱られることに早く免疫になることです」と言うのを真に受けて。生徒諸君とは年齢差も少なかったせいも友達づきあいで、卒業後も色々と遊びも共にして、私の教員生活の中では一番印象に残っています。この芸専クラスとのつきあいは、その後も三回程あります。

昭和38年の入学生からはベビーブームの波で、高々も十七、八クラスにもなり、当時廊下を対面交通した程でした。全校三千弱の生徒のエネルギーで満ち、活力に溢れ、最も勉強した時期だったと思いますが、それに続いたのが、学園紛争の時代でした。当時の高々でも夜間に白壁に黒ペンキで落書きされたり、アジビラが教室に置かれたりして、学校中が大揺れに揺れました。宿直中も大変だったことを思い出します。それに続く挫折の時期が、いわゆる三無、五無主義の「しらけ」の世代になりました。このように私の在任15年は変動の時代であったように思います。

昭和52年に第2次ベビーブーム対策として高松市鬼無の地に、高々の兄弟校づくりの目的のもと高松西高が創立され、高々から学生・教務主任として塩井先生、生徒部長として故西村先生、その他に松橋、宮本、堤、満川、笹岸、中井の諸先生などと共に新設校づくりに努力した九年間もまた張りのある時期でありました。

昨年の四月から、今の香川県漆芸研究所の専門職員並びに香川県美術工芸研究所の事業課長の兼務をしております。香川県漆芸研究所は高松工芸高校の敷地の南西端にあり、創立30有余年になりますが、香川県人もあまり知らないと思いますので、ここに簡単に紹介してみます。

香川県の漆芸は東京、京都、北陸（石川県、富山県など）とともに漆芸に関しては四大産地をなしております。技法としては、蒟醬^{きんま}、存清^{ぞんせい}、彫漆^{ちやうしつ}の他に後藤塗、象各塗、讃岐彫などがあり、音丸耕堂、磯井如真、磯井正美の重要無形文化財技術保持者（俗称人間国宝）もおります。漆芸研究所は、蒟醬、存清、彫漆の技法後継者を育成するとともに、秀れた制作品を創り出すための研究をしているところです。

美術工芸研究所は県内の美術工芸作家の研修事業を中心として、中央の美術家、美術評論家、美術工芸作家の先生方を講師として、技術講習会を年間十数回開催しております。

最後になりましたが玉翠会東京支部がますます発展しますことを心からお祈り申し上げます。

めぐり逢い

(高女昭和16年卒) 内田信子

長い人生での数多いめぐり逢い、それは人さまざまである。

恩師との再会

六年前の六月のこと。卒業40周年のクラス会でふる里高松へ。会、終了後、親友の猿谷さん(高女理科の恩師猿谷先生のお嬢さんで現在の中島さん)と二人旅、四国一周は又の折にして、小豆島の多田先生(高女習字の先生)宅をお訪ねしてみようと急遽私も一しょにお伺いすることにしました。(当時猿谷先生と多田先生のお住居はお隣同士だったので。)

小豆島での先生は、思いがけず覚束ない足どりで、杖を手に出迎えて下さいました。このお手で、かって私達が在学中、あの流麗な書道を高松高女生にお教え下さったのにと、心は40年前にさかのぼり感慨一入でございました。

あれは昭和16年、卒業アルバムの表紙題字『わかき日』を書くよう指名され、私なりに懸命に書いたことも、昨日のように懐かしく思い出されました。又五年生(昭和15年)最後の展覧会に出品するよう言われ、夏休み中、休まず一枚一枚短冊を書きつけ、和漢朗詠集上、下二巻を作製、完成出来たのもすべて先生のおかげと、嬉しく思って大切にしていました。先生はいつも私に『この巻物だけは嫁入道具の一つにするように』と。ところがあの昭和20年7月高松市大空襲の時、持ち出せず卒業アルバム諸共、焼失してしまいました。今日先生にめぐり逢い、又しても私にとって若き日の思い出の宝物をなくしたことが惜まれるのでした。

先生は一年前、最愛の奥様に先立たれた為、この処、ひどく傷心されておられました。在学中よく猿谷さん宅へ遊びに行きお隣だった多田先生の奥様やお嬢様(二人共附属小学校で知っていたので)ともお顔馴染みになっていましただけに奥様の死は大変ショックでした。

ともあれお墓詣りをと、オリーブの島の急な坂道を、いく曲りして登って行きました。先頭に立って案内役の先生、足どりもかるく、早くて力強いのに驚いてしまいました。さっき出迎えて下さった折の先生とはまるで別人のよう。

小高い丘の上にお墓はありました。墓前で合掌、ご冥福をお祈りしました。先生は何度も『有難度う、有難度う』と仰言いました。奥様への愛情の程が偲ばれて目頭が熱くなりました。

この地域の風習とかで、どの墓石にも“前掛け”お地蔵さまの「ヨダレかけ」のような布が掛けてあり、私はひどく物珍しく感じました。どことなく島の人々のほのぼのとした心のぬくもりが伝わって来るようでした。

このめぐり逢いの翌年先生ご逝去の訃報に驚きました。土庄の町、港が一望出来る墓石のある丘が先生も奥様も大変お気に入りの場所とか、今は奥様とご一緒に仲睦まじく瀬戸の朝凧、夕凧を心ゆくばかり眺め楽しんでおられることでしょう。

それにつけても、数多くの多田先生に教わった私共の先輩、後輩の筆跡字体は、一見して高女出身だと思えるほど似ているようであります。私も姉達と筆跡が同じようだとよく人様に言われます。これは偏に先生の若き日の情熱が、私共に浸透した御指導の賜と思います。

このめぐり逢いを境にして、先生の晩年の枯淡な筆跡とお姿に接することが出来た私は、ほんとに倅せだたと存じています。その折書いて下さった色紙短冊その上筆までいただく、『(帰ったらこの筆で書いて送るように)』と、今私の文箱に思い出と共に大切にしまってあります。

先生は亡くなられましたが、多勢の教え子の各地での活躍が、すばらしい筆跡と共に、それからそれへ、子々孫々に拡がり、盡きることなく、その年輪が増えつづけていくであろうことを——、そして一人の教育者とのめぐり逢いが、どんなに尊く偉大で大切なものであることか——としみじま思うこの頃でございます。

恩師より賜りし筆初おろし

書きし色紙の 送るすべなし

師の君へ思い馳せつつ原稿を

書けばかの日の あをあらし 青嵐吹く



菊池寛先生の高松での講演

(高中昭和16年卒) 藤 井 勲

昨年の東京玉翠会の席上の、出席者中最高年齢者として太田顕先生（高中明治41年卒）と桜井キヨ先生（県女大正5年卒）が表彰された。太田先生は、かくしゃくとしておられ96歳とはとても思えなかった。

実は太田先生は菊池寛先生と同期、桜井先生は菊池先生が「私の妻は性格的に高貴なものをもっており、私の結婚は私の生涯において成功したものの一つである」といわれた^{おた}包子夫人と同期である。私はあのおめでたい表彰が菊池先生ご夫妻と不思議な縁で結ばれていることに感じ入ったことであった。

『文芸春秋』を創刊し、芥川賞、直木賞を設立した菊池先生といえば、そのマクラ言葉は「文壇の大御所」であった。

大正6年4月、菊池先生が結婚したとき、太田先生と綾部健太郎氏が新妻を見ようと、連れ立って菊池邸を訪ねたことがある。ところが、新妻に会うことが出来なかったことに腹を立てた綾部氏は玄関の土間に放尿したということだ。

念のために太田先生に確めたところ「ただ奥さんの出て来るのを待ったまでのことで、奥さんに会わせろとは言わなかった。だから何もお祝いの品は持参せず手ぶらで行った」のだそうだが。

綾部氏は高松市中野町出身。少年時代は旧姓町川で、高中に在学し菊池先生と同級生で親しかった。然し、卒業を待たずに大分県の方へ転校し、後に京都大学に入って再び親しく交わるようになる。菊池先生が将棋を研究し出したのは、何としても綾部氏にだけは負けたくないためで、このための床屋の主人に特訓を受けたというエピソードがある。

昭和40年ごろ『末は博士か大臣か』という綾部健太郎監修の映画が封切られた。この映画は両氏の中学時代からの友情をえがいたものであった。

綾部氏は運輸大臣、衆議院議長、鉄道建設公団総裁を務めたが、昭和47年亡くなった。高中時代も、なかなかのヤンチャぶりを発揮し、たとえば物理や化学の実験で教室を暗くしたとき、先生の頭をたたくとか、顕微鏡をのぞきに行くとき、そっと先生の背中にチョークの粉末を投げかけたりしたという。

太田先生の令息怜氏（昭和14年卒）は東大医学部在学時代菊池邸に下宿していた。昭和23年

3月、菊池先生の葬儀の時はお柩を担いだそうだ。将棋好きで大内九段門下の三段であり、昔菊池邸に出入していたことのある高柳敏夫八段によれば「非常に筋がよい」とか。



上の写真は昭和11年2月10日、菊池先生が高中の講堂で講演された時のものである。「至誠一貫」の扁額は東郷平八郎元帥直筆のもの。われわれが習字のとき使った^{へんみ}逸見文具店製の墨には「至誠一貫」の字が刻みこまれていた。この写真は教頭の根津繁三郎先生が撮影され、根津先生の古いアルバムに貼ってあったものである。菊池先生は『恩讐の彼方に』の署名入りの初版本を根津先生に贈呈されたというから、前からじっこんな間柄であったのだろう。

来校された菊池先生を応接室にご案内したのは、昨年「囲碁と人生」物語で紹介された津坂宗一先生であった。講堂にご案内するまで、暫く時間があつたので、津坂先生は色紙を出してサインをお願いしたところ、快く筆をとって「我事に於て悔いず」と書いて下さったそうである。

母校創立80周年記念『年輪』には岩本亦一、小川誠一、鈴木次郎、矢野直衛の懐しい諸先生の座談会が掲載されており、それによると菊池先生を招いて「戦国武将談」を話していただいた。そのあとで寛さんは「軟文学高中の門に入るべからずで、母校は私を呼んでくれたことがなかったが、ずい分さびしかったです。今、母校の講堂に立つことができこんなうれしいことはない。」と述懐されたのは印象深かったそうである。

この講演会は私たちが入学する直前のことで、英語の川合昌平先生がその時のことを話して

下さったことがある。今でも印象に残っている言葉は「一度でもいいから一番をとれ。一番をとると非常な自信を持つことができ、生涯得をする。然し、皆が一番をとることは出来ないから、十番の者は他の学校では一番だと思え。百番の者も他の学校では一番だと思え」という菊池先生の言葉である。

最近、一年上級だったさる先輩から聞いたところによると、その時菊池先生は「おとなしい先生の教室ではよくいたずらをした。温厚な数学の先生のと看、三角形ABCと書く代りに三角形イロハと書いた。クラスの連中は大喝采したがその先生は蒼くなってしまった。後で数学の主任の先生からひどく叱られた」とか「中学で幾何や三角を学んだが、三角形の二辺の和は他の一辺より大きいということは後に役に立ったが、その他のことは何も役に立たなかった」と話されたそうだ。

中学5年生のとき、私たちは直接菊池先生の講演を聞く機会に恵まれた。

昭和15年11月、高松市の県公会堂で通信省主催の講演会があった。

蓄へて 国の力になるといふ

有難き貯蓄 勵むべし

そのころは誰かこの歌がポスターになって、あちこちの壁に貼られていた。貯蓄奨励のためのその講演会には地元出身の菊池寛先生が出席されることになっていた、市内の男女中等学校の最上級生が動員された。公会堂の回りの木はもう葉が落ちて、うすら寒い午後である。畳敷きのさしものあの大会堂も一般聴衆もつめかけ、立錫の余地もないぐらいであった。県女の生徒と同席して講演を聞いたのは初めてのことである。

先ず市の助役が軍備に如何に金がかかるか、そのために貯蓄がどうしても必要であると数字をあけて説いた。助役が「わが県の生んだ最も偉大な方」と紹介して菊池先生が壇上に立たれた。新聞雑誌でよく見受ける写真そっくりの方である。大きな拍手が起こる。

「私が旅行する時は、いつも鉄道省から切符を下さるのでありまして、鉄道省には非常な恩義を感じております。今度通信省から高松へ行って講演してくれと頼まれました。考えてみると通信省にはご厄介になったことがありません。しかし、貯蓄奨励のためということなので敢えて承諾したわけであります」

と最初に話されて聴衆の笑いを誘った。

菊池先生の演題は「武士道の精神について」であったと思う。

昔武士気質（かたぎ）などもユーモアに話された。たとえば浪人が二人道中で知合いになったが、銭湯で相手の武士のお尻にきずがあるのを見つけて「それは逃げきずか」といったことから「聞き捨てならぬ」と果し合いになった。「そのあとどうなったか知りたい方は私の作品を

お読み下さい」といわれ、笑せた。

途中で野球の話がされた。

「私の中学時代野球をやったのですが、高松中学は昔から野球が強かった。私の中学時代慶応の野球部が関西へ遠征に来たが、その目的の一つは高松中学と練習試合をするためであった」と話された時は、私たちは暫し鳴りやまぬ拍手を送った。

ある試合で打者が死球を受けて倒れてしまった。審判を始め関係者が心配して駆け寄った。その時である。彼は「何くそ！俺は九州男児だ」と叫んだそうである。「この言葉を今も忘れられないのです」と菊池先生は目をしょぼしょぼしながら語られた。この何くそ！という精神は武士道の精神に通ずるということと話されたように思う。

「武士道の精神について私が非常に共鳴している言葉があります」といわれ、洋服のポケットから取り出されたのが紙を丸めたものであった。先生はそれを広げ、そのしわを伸ばしながら、そこに書かれた文章を読み始められた。それは私たちが漢文でよく読んだことのある江戸時代の儒学者佐藤一齊の『言志録』から抜き書きしたものである。読み終ると何気ない風でその紙を丸めて、またポケットにしまわれた。満場爆笑菊池先生の面目躍如たるものがあつた。

菊池先生は「私の先祖は九州の菊池ですが、それがどうして四国に来たのかよく分らないのです」と語られた。

又「学生時代銀座で友人と一緒に初めてアイスクリームを食べたのですが、こんな美味しいものは藤原道長だって食べたことはなかっただろうと話合ったものです。新しい時代に生きる者の仕合せは、昔はとても考えられなかったような文明の恩恵にあずかることができるということです」とも語られた。

菊池先生のお話をじかに聞いたのはこれが初めてでありまた終りとなった。

翌日の新聞によれば、その日の朝、先生は母校の四番丁小学校を訪問され、全校生徒に「浄願寺の古狸」などの話をされたそうである。校長室で卒業記念の写真を見せられると「これは〇〇校長先生、これは××先生、これは僕だ」と懐しそうに指さしたという。当時四番丁小学校では確か校舎の改築が行われていたが、校長からその話を聞くと即座に一千円の寄附を申出られたとも書いてあつた。

作家向田邦子さんの『夜中の薔薇』の中の「女を斬るな狐を斬れ」を読むと、向田さんは当時四番丁小学校（そのころは国民学校とっていた）に在学していて、菊池先生のこの講演を聞いている。六年生の時だと書いているが五年生が正しいのではないかと思う。

印象深かった話としてこんなことを語っている。

「子供の頃、家が貧しくていつも同じ着物を着ていた。筒袖で涙を拭くものだから袖口がビ

カピカ光っていやな匂いがした。そのせいだろう、習字の先生はほかの生徒には一人一人うしろに立って筆に手を添えて直してくれるのに、自分には顔をそむけ一度も直してくれなかった。貧乏は辛いものだった。」

「人を批評したり判断する時には欠点を先に言いなさい。あの人は人が好いがだらしがない、というのだらしがない人ということになってしまう。しかし、だらしがないが好人だと考えれば世の中は楽しくなります。」

そして、自分の名の寛という字を引き合いに出して、人には寛大、自分にはきびしく、といわれたという。

又この講演会とき、給食係の白いかっぽう着のおばさん達が講堂の入口に遠慮勝ちにひと塊になって聞いていた。菊池先生はそれに目をとめ、どうぞ奥へお入りなさいという風に手招きされたそうだ。

男のやさしさというと、先生の短篇「狐を斬る」とこの話を思い出してしまうとも語って、この話を結んでいる。

作家の小島政二郎氏は菊池先生についてこんなことを書いている。

「この時の旅で、讃岐の高松で食べたサワラのサシミ、照り焼のうまかったことは今でも忘れられない。

高松は、菊池寛の生まれたところなので、私は前後数え切れないほど訪れている。それほど私は菊池に愛され、鞭撻された。もし菊池との交際がなかったら、私という作家は存在しなかったろうと思っている。そういう恩を離れて、客観的に見ても、文学者、小説家、読書家、そうして一個の人間としてこのくらい偉い人間は文壇にいなかったと思う。……東京の魚はまずいまずいと言いつつ、菊池は魚が好きで、魚屋の支払いが同じ町内に住む某大臣の家の払いよりも多いと言って子供みたいに自慢していた。事実、高松の魚は何を食べてもうまかった。」

「大きくて、親切だった。親切と言うよりも暖かかった。

彼の暖かさに触れた人は、一生暖かさがあとに残って忘れられなかったろう。眼（まなこ）が横に切られた人の暖かさは冬の日向（ひなた）のように大きかった。あの大きさが忘れられなかった。

彼が小説に成功したのも、事業に成功したのも、最後に大人物になれたのも、偶然ではなかった。彼がいなくなってから、あとに残った大きな寂しさは異常であった。」

私は幸運にも一度だけ菊池先生の講演を聞く機会に恵まれたが、この原稿を書きながら強く私の心に迫って来るものはやはり菊池先生のあの「冬の日向のような暖かさ」である。



村尾 清一氏

鉛筆の芯 — 村尾清一氏のこと —

昨年11月読売新聞社から『鉛筆の芯』という本が出版された。この本は同社取締役・論説委員の村尾清一^{きよかず}氏が昭和44年8月以降17年間にわたって書いた読売新聞夕刊のコラム「よみうり寸評」5,000編の中から選びぬいた珠玉の198編をまとめたものである。

まるくなった鉛筆の芯の先を、ドイツ製の小さな鉛筆削りで鋭くとがらせながら想いをこらして書いたというこの「よみうり寸評」の中には、「斜め思考」や「女性の年齢を聞くな」など高校の社会科の教科書に採用されたものや早稲田大学や都立高校の入試に出たものもある。

昭和56年、村尾氏は「よみうり寸評」により、報道・評論を通じて言論界に貢献した“個人”に贈られるという日本記者クラブ賞を受けた。

昭和56年4月26日の読売新聞はこの賞を受けた村尾氏のプロフィールを次のように紹介している。

〈よみうり寸評〉は、戦後24年11月27日、夕刊が再発行されると同時に設けられた。戦前は〈よみうり直言〉〈よみうり波長〉の題で続いていた。形は違っていた。

《本日からの欄はこういう形で読者諸君にまみえる》と、今のスタイルを創設したいわば、初代は三宅晴輝。25年10月1日からだ。末尾に青鬼の署名入りだった。

二代目は細川忠雄。30年10月1日から登場。署名は外した。達意の文章は、広く読者、文壇の友人にまで親しまれたが、44年夏、病床に伏し《申しわけないが4日から1か月ほど、休養して体調を整備し再登場する◆東西、東西、代打者にご声援のほど願ひ上げ奉る》と、現寸評子に筆を渡した。

8月4日付からの登壇で主題に取り上げたのは大学運営臨時措置法の強行採決。《大学生のゲバを押える法律が、国会議員のゲバで成立した》と指摘し、《権力者は民

衆に見放されるとき確実に没落する》とマキャベリの言葉を引用して戒めた。

細川はこの年の初冬、不帰の人となり、代打者がつとめ読けて12年。この度の受賞には「たいしてうれしがることでもないし、仏頂面するわけにもいかないし」と言って口ごもった。

照れたり気取ったりしているのではない。新聞記者にとって、読売新聞で言えば“朝刊の編集手帳、夕刊のよみうり寸評を預けられることが、すでに最高の勲章なのだ。

細川寸評子の葬儀の席で、かつて編集手帳子として健筆を振るった高木健夫が弔辞を読んだ。《君は鉛筆というノミを持って、おのれの肉体を切り刻み、骨を削るようにして時事に対するおのれの意見——オピニオンを研ぎすまし、毎日五百字あまりの文章を書きつづけて来たのであります》という感慨は、コラムニストならではの言葉である。

いまは11字44行、五百字に満たないマス目に、同様骨身を削る日々。4時半に起きて、すでにオートバイで届けられている朝刊最終版に目を通し、改めて取材し、資料を確かめ、想を練る。夕刊時間帯の大ニュースがあれば社に駆けつけ、編集局の熱気の中に身を置く。現場を踏み、一記者として要人との会見に顔を出すこともある。

旧制高松中三年の時、国語の担任に触発され、三高一東大法学部を経た後も、ためらいなく記者の道を選んだ。33年たった今も「差別される側」に立つとの信条は変わらない。

(西島 雄造記者)

村尾清一氏は昭和15年卒業で平井城一香川県知事と同期。上の紹介文に登場する国語の担任とは岩佐^{まさし}先生である。ここで岩佐先生に触発されたエピソードをご披露しよう。

昭和5年11月14日午前8時58分、浜口雄幸首相は岡山県下で行われる陸軍特別大演習参観のため、午前9時発特急つばめ号の1等車に向かって東京駅のプラットホームを歩いていた時、兎漢佐郷屋留雄に襲撃され直ちに応急手当を受けて帝大病院に入院した。

その後小康を得たが、腹にガスがたまり、オナラが出ないと命が危いというので、

オナラが今出るか、今出ると待ち望まれたことがあった。結局はオナラは出て、ほっとさせたのであるが、これを報じたある新聞は、日本海海戦「此の一戦」をもじって「此の一発」という見出しをつけた記事を載せた。

学生時代岩佐先生はこの記事を読んでいたと感心された。一つの出来事を短い言葉の中にずばりその革新をつく新聞記者の勘の鋭さ、頭のよさについて昭和12年、高中3年生だった村尾氏ら生徒たちに語られ、新聞記者をほめたたえられたというのである。

これに触発されて新聞記者になる決心をしたのである。同期の大西克仁氏は「村尾君は中学三年の時すでに僕は将来新聞記者になるんだと言っていた」と証言する。

昨年の東京玉翠会誌で、猪又清之氏は「ふるさとは近くにあり」の寄稿文の最後に「私のスクラップの中からとっておきのもの」として或る日の「よみうり寸評」を紹介している。これは成田知巳氏のなくなった日の翌日、つまり昭和54年3月10日掲載のものであり、『鉛筆の芯』には「名マネージャー“キューピッド”成田知巳」のタイトルで収められている。

一昨年11月、高松で開かれた第45回（昭和15年）卒業生の同窓会の席上、村尾氏に対し、あの成田氏のいたむ「よみうり寸評」を読んでくれるようにとの依頼があり、浜松市在住の久本祥次氏がわざわざ持参してくれていたのを、乞われるままに朗読し大喝采を浴びたそうである。

読売新聞元記者で詩人の大岡信氏は「ビキニ核実験による第五福竜丸被曝事件の時、恐るべき放射性落下物を端的に『死の灰』と名づけたのは村尾記者だった。巨大な出来事の本質を寸鉄に要約する能力は、ジャーナリストに求められる最重要の資質である。村尾さんがやがて『寸評』筆者として健筆を揮うことになるのは当然だった」と書いている。

村尾氏は50年前岩佐先生に触発されて新聞記者になる決心をしたが、岩佐先生のご期待に応えるすばらしい記者となった。

最後に岩佐先生のご消息をお伝えしたい。

岩佐先生は岡山一中、六高を経て昭和7年東大文学部国文科ご卒業。昭和8年高松中学国語教師となり、昭和13年奉天一中教諭として渡満、同17年満州国の国立陸軍軍官学校教授。21年引揚げ。法政大学予科教授を経て旧制広島高校教授、新制広島大学

教授、同大学名誉教授。

岩波文庫の「新葉和歌集」は岩佐先生の校訂である。又岩波書店発行の日本古典文学大系の「神皇正統記」の校注をされた。

岩佐先生は終戦まで満州（現在中華人民共和国東北部）で教鞭をとっておられたが、終戦後子女数百名を引き連れて、途中筆舌に尽くし難い辛酸をなめられて無事帰国された。

こんなこともあったそうだ。避難途中、奉天（現在の瀋陽）にある企業の大きな寮があったので、かくまってくれと頼んでみたが、女性がいるとソ連軍に襲われるからといって断わられてしまった。ところが、その企業の責任者が岩佐先生を見てびっくり。「岩佐ではないか」というので、よく見るとその人は六高時代の友人であった。その縁でかくまってもらうことが出来、ソ連軍に暴行されることもなかったという。

昭和55年8月27日亡くなられた。享年71歳であった。

（I. F. 記）

スポーツ雑記

（高高昭和38年卒）重 松 麓

昭和37年7月30日、北四国大会準決勝が行なわれ、延長16回の熱戦の末、愛媛県代表西条高校に3対2のサヨナラ負けを喫した。敗戦の瞬間、脳裡に幾多の苦しい猛練習のシーンが駆け巡り、悔しさを抑え切れなかった。主戦投手の田中、橋本、大島他仲間と中央球場から、涙を流しながら肩を抱き、合宿所までの数百メートルを歩いて帰ったことは、昨日の事のように記憶に残っている。

この年、夏の大会での我が高松高校の前評判は高く、県予選ではシード1位校として大会に臨んだ（シード1位は戦後初めてでこれからもなかろう）。大会では順調に勝ち進み北四国大会に出場したが、大接戦の末敗北。少数メンバーでよく戦えたものだと思う。これも諸先生、諸先輩方のお陰と感謝している。部員全員がよく猛練習に耐えた為に、大会前など授業中によく居眠りしたことだろう。私もよくやったものだが、特に咎めも受けず、寛容な先生方から逆に激励された事を思い出す。

当時のメンバー（三年生のみ）

投	田中 調	東映（現日ハム）退団、菓子屋社長
補	英 武徳	自由業
一	橋本 勝隆	中日退団、スナック経営
二	柏 邦男	地方公務員
三	重松 麓	会社員
遊	大島 皓尚	会社員
左	伊賀 詔	地方公務員
中	笠井 聡夫	会社員
右	小林 勲	

現在、私は営業を担当しているが、野球経験がいろんな人とのつきあいに生かされるのは、幸福である。

ロサンゼルス駐在時、無類の野球好きであった副社長（故人）が来羅するというので、ドジャー・スタジアムの試合をアレンジすることになった。ドジャー・スタジア

ムは、ロサンゼルス・ダウンタウンから東方約3キロ程の高台に建設された美しい球場で、ユニオン・オイルという石油会社が、スポンサーとなっている。それまで、ユニオン・オイルとは商売上、長年の付き合いがあったが、あまり親密な関係ではなかった。なんとか気難しい購買担当のホルサロ氏にアレンジを頼んだところ、最上級のボックス席の予約に加え、歓迎の電光掲示迄やってくれた。副社長が飲んだのは云うまでもない。おかげで御礼旁ホルサロ氏と何度かの酒席を通じて、親しくなることが出来た。

現地では、多種多様の方とお会いできる機会に恵まれた。お世話した大学教授、労働組合幹部、政治家等、一面識もなかった方々から無事帰国の旨礼状を頂戴する毎に、その心遣いに嬉しくなったものである。会席では話題に苦勞し、私から現地の情報を提供したあとは、もっぱら日本のスポーツの状況の聞き手に回ったものである。大多数の方はスポーツに興味を持たれていたように記憶している。

元来無精者ではあるが、出会いを大切にし付き合いを大事にしたいと思っている。猛練習に耐えた仲間とは、帰省した際には集まり、監督も呼び、同僚の経営するスナックで飲み、歌い、昔話に花を咲かせている。そろそろ同期の仲間とは、たまに会って近況報告を聞きたい年齢になってきたようだ。又、私のささやかな夢の一であるが、「野風増」の歌のように、いつか息子と酒を飲み交したいと思っている。

二つの母校

(高高昭和25年卒) 平井卓志

故あって私は二つの旧制中学に学んだ。一つは東京都立四中(現戸山高校)、今一つは香川県立高松中学(現高松高校)である。従って同級生の数も世間一般の方々比べて多い勘定になる。

東京空襲で戦況が急を告げ始めたため、故郷に帰り高松中学に転校したが、ここがまた讃岐の名門校、出来そうなのが一杯いた。早々いろいろ友達が出来たが、特に多田野久(多田野鉄工所専務)、岩本喬(常磐興商社長)の両君は一風変わっていた。多田野君は徳島大学に進んだが途中リタイア、岩本君は“各駅停車”の新記録を作り、旧制中学最後の卒業生たるべき榮譽(?)を逸した型破り人間。

多田野君は兄弟で家業を支え、一部上場会社の専務として敏腕をふるっている典型的な企業人。マージャン、ゴルフ何でもこい、ひたすら求めてやまない攻撃タイプで、私とは不思議にウマが合った。一方、岩本君は若くして親兄弟を亡くし、天涯孤独に近い生活を味わったため、^{しん}芯のしっかりした極めつきのネアカ人間。私の後援会の重要メンバーとして政治活動を支えてくれている。

考えてみれば私たちは悲しき昭和一ケタ世代、終戦直後の飢餓状態も経験している。それだけに働くことを苦にせず、貧乏性を背にひたすらがんばってきた。そんな中から自然と特別な友情がはぐくまれてきたように思う。

半世紀近くをへて気が付いてみると、私は経済大国日本の労働大臣のイスを汚す身。取り巻く環境のきびしさとともに、二つの母校で机を並べた素晴らしい仲間たちに囲まれたわが身の幸せをかみしめている。(日本経済新聞昭和62年5月7日付記事より)

(労働大臣)

地元三八会の近況

(高高昭和38年卒) 新 藤 勝 利

「いいからいいから、気にしない」、「奥歯ガタガタいわしたるわい」、「オフィス・レディ」、「カギっ子」、「カワイ子ちゃん」、「現代っ子」、「六本木族」—— 流行語は世相を語るとか。

サントリービールが発売されたその年(昭和38年)に卒業した由縁でもなかろうが、われわれ三八組は実によく飲む。県内在住組で、“花のサンパチ会”を結成したのが、4年前。常磐本館で行った20周年記念総会には全国各地より140人が会し、深夜まで侃々諤々、喧々囂々、盃を重ねた。青雲の志を得、凶南の翼をと心に期して母校を後にしてやがて来年は四半世紀。海外に雄飛している同期生も多くそれぞれの道を邁進しているが、そろそろ熟年の域。かつての青春、せい春を懐かしむ心も芽生えてきた。

そのような折、恩師の徳田一雄先生の訃報に接し、同期生とともに葬儀に参列したが、会からの花輪の一つでもあればという念にかられることしきりだった。これを機に三八会の同窓会基金をと趣意書を配布、またたく間に120万円余が寄せられた。

もちろん、この基金はわれわれが五十路、六十代、七十代になるまで大切に運用していくつもりであり、心のよりどころとなるものである。基金とは別に薬王寺厄落とし参り、忘年会、新年会、親ぼくゴルフなど全体で、また小グループでと活発に親交が図られている。

われわれ三八会も来年が25周年。かつての「現代っ子」は「新人類」なるものにとって代われ、旧人類、化石の部類となるらしいが、4年前をしのぐ記念総会をと、準備中。四半世紀昔の「現代っ子」「カワイ子ちゃん」の心意気をみせたい。

(三八会同窓会世話人)

第五回東京玉翠会総会幹事を担当して

本年度総会幹事を担当するにあたり、総会とは年に一度の「あの昔日の故郷」の提供であり、そして「長つづきさせることが最も大事である。」との基本的考えにたち、62年2月末から準備に入りました。我々にとっては東京高々会発足から数えて13回目の総会となりますが、数年前までの38年卒の総会出席者は毎年5～6名で、なかでも少ない年は2名だったと記憶しています。それでも40才が近づくとつれ徐々に出席者も増え、ここ2～3年は特に女性の協力を得て男女同数の約30名を数えるに至っております。しかし総会幹事年度を迎え、男性は会社、女性は家庭等と多忙な中で何人の人達が手伝ってくれるかと不安なスタートでしたが「案ずるより産むが易し」で広告、動員、総会、物品、プログラム、会計、渉外、販売等各担当責任者を中心に大勢の仲間達が総会に向って奔走してくれました。又高松を本拠とする「三八会」の同窓生達が、「今年の東京玉翠会総会の幹事は東京地区在住者だけのものやない。我々昭和三十八年高々卒業生全員が幹事なんだ。三十八年卒の責任においてかならず総会を成功さすんだ。」との掛声のもと物心両面からの力強い支援をしてくれました。更に、各年度の幹事の方々の協力を得たこと、特に昨年の総会の準備経過をまとめた引継書は、今回の準備を効率良く進める為に大変役立ち、ここに諸先輩方々の御苦勞に、感謝致したいと思います。昨年の総会后、「来年は我々の幹事年度だがどうなるか心配だな」と話したところ、ある先輩が「心配せんでもええ、高々生はやる時にはやるんだ。それが高々生なんだ。」と激励してくれましたが、今実感としてその言葉を思い出しています。来年度の幹事である三十九年卒の諸君へ—そしてそれに続く後輩達へ—私達のこの言葉を添えてバトンを渡します。先輩達が築きあげてくれた全国一のこの同窓会をいつまでも継続させるために勇気を持ってバトンを受取って下さい。玉翠会の更なる発展を期待しております。

最後になりましたが、ご来賓の方々、又ご出席戴きました皆様方、そして本総会にご協力戴きました方々に心からお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

東京玉翠会会則

第一章 総 則

(名 称)

第 1 条 本会は東京玉翠会という。

(目 的)

第 2 条 本会は会員相互の連絡と親睦を図り、母校の発展を期することを目的とする。

(事 業)

第 3 条 本会は前条の目的を達するため次の事業を行う。

- (1) 会員相互の連絡、親睦を図るための会合、行事
- (2) 会報、会員名簿の発行
- (3) 母校の発展に寄与すると認められる事業

(事 務 局)

第 4 条 本会の事務局を東京都内に置く。

(会則改正)

第 5 条 本会則の改正は幹事会の決議による。

第二章 会 員

(会 員)

第 6 条 本会は、香川県立高松中学校、同高松高等女学校、同旧高松高等学校、同旧高松女子高等学校及び同高松高等学校（以上五校を母校という）の卒業生（これに準ずる者を含む。以下通常会員という）ならびに母校の旧職員（以下特別会員という）で東京都及びその周辺に在住する者をもって組織する。

(部会の設置)

第 7 条 1 第 3 条の事業を行うため母校別の部会を置くことができる。
2 部会の運営はその所属会員の協議による。

(会 費)

第 8 条 1 通常会員は年会費を納入しなければならない。

〈編集後記〉

「忙しいだろうな」、「忙しい」、「忙しかった」、これがここ 3 か月余りの編集班の感想です。

私達高高38年卒組も母校を卒業して20年以上、また大きな夢(?)をいだいて上京して長い間たちました。ここで新人類が住むと言われる高高がどうなっているかを、特集しました。特に私達の学校での最大の関心事の一つであった食堂の状況はいかがだったでしょうか。またクラブ活動の状況も懐かしかったのではと思います。

最後にお忙しい中、原稿をお寄せ下さった先輩諸氏、先生方、生徒会の方々に厚くお礼申し上げます。

2 年会費の額は、毎年常任幹事会の決議によりこれを定める。

第三章 役員

(役員)

第 9 条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 4名
- (3) 常任幹事 若干名
- (4) 事務局長 1名
- (5) 幹事 その員数は次条第2項の定めによる
- (6) 監事 3名

(役員を選出)

- 第 10 条 1 会長及び副会長並びに監事は総会において選出する。
- 2 幹事は各卒業年次毎に通常会員の互選により各1～2名を選出する。
 - 3 常任幹事は会員の中より会長が指名する。
 - 4 常任幹事のうち1名を事務局長、1名を会計担当として会長が指名する。

(任期)

第 11 条 役員任期は2年とし重任を妨げない。但し補欠により就任した役員任期は前任者の残任期間とする。

(役員職務)

- 第 12 条 1 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは会長の職務を代行する。
 - 3 常任幹事は常任幹事会を構成し重要な事項の審議、決定を行う。
 - 4 幹事は同期生の消息を把握しその連絡にあたるほか、幹事会を構成して会務の執行を決する。
 - 5 監事は本会の会計を監査する。

第四章 会議

(総会)

- 第 13 条 1 総会は会長の招集により毎年1回開催する。
なお必要ある場合には臨時総会を開催することができる。
- 2 総会においては、次の行事を行う。
 - (1) 会務及び会計報告
 - (2) 会員の親睦を図る行事
 - (3) 本会の運営に必要な事項の決定

(幹事会・常任幹事会)

第 14 条 幹事会、常任幹事会は必要の都度会長が招集する。

(議長)

第 15 条 総会、幹事会、および常任幹事会の議長は会長があたる。

(議決)

第 16 条 総会、幹事会、および常任幹事会の議決は出席者の過半数をもってこれを行う。可否同数のときは議長の決するところによる。

第五章 会計

(会計)

第 17 条 本会の会計は年会費及び寄附金その他の収入による。

(会計年度)

第 18 条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終る。

第六章 その他

(顧問)

- 第 19 条 1 本会は常任幹事会の推薦により顧問を置くことができる。
- 2 顧問は会議に出席し意見を述べることができる。

附 則

第 1 条 本会則は昭和58年6月25日より施行する。

東京玉翠会役員候補者名簿

会 長	平 井 健 吉	(高中 23回)
副 会 長	宮 井 仁 之 助	(高中 44回)
	松 浦 三 知 子	(高女 昭和 4 年)
	多 田 野 久	(高高 昭和25年)
	永 野 精 子	(高高 昭和27年)
常 任 幹 事	寒 川 孝 栄	(高中 34回)
	乾 浩 三	(高中 43回)
	木 下 薫	(高中 44回)
	辻 部 俊 介	(高中 47回)
	大 西 實	(高中 54回)
	前 田 フ ミ	(高女 昭和 8 年)
	岡 式 子	(高女 昭和11年)
	東 原 武 子	(高女 昭和13年)
	提 久 子	(高女 昭和15年)
	和 波 良 子	(高女 昭和20年)
	藤 井 富 弘	(高高 昭和26年)
	久 保 醇 治	(高高 昭和27年)
	井 関 賢 治	(高高 昭和29年)
	近 藤 和 彦	(高高 昭和30年)
	宮 武 敏 夫	(高高 昭和31年)
	三 宅 貴 子	(高高 昭和33年)
	三 崎 屋 義 正	(高高 昭和34年)
	星 野 正 信	(高高 昭和38年)
	岡 正 晶	(高高 昭和49年)
事 務 局	大 西 昭 一 郎	(高高 昭和33年)
監 事	松 田 和 光	(高中 47回)
	應 尾 信 子	(高女 昭和11年)

寄贈図書目録

皆様に御協力いただきました母校図書購入資金で下記の図書が、特別コーナーを設けて揃えられております。今年もなにとぞ御協力をお願い致します。

年度	出版社	書名	巻数
S53	河出書房	トルストイ全集	20
53	みすず書房	ヴァジニア ウルフ著作集	8
54	講談社	ファミリークック	14
54	岩波書店	地球科学	16
55	文芸春秋社	菊地 寛文学全集	10
55	趣味と生活社	世界への旅	11
56	講談社	世界動物文学全集	28
56	筑摩書房	石川琢木全集	8
57	ライフ社	人間と科学シリーズ	21
58	ほるぷ出版	体育スポーツ科学選書	14
58	ほるぷ出版	日本の詩	25
59	講談社	現代総合科学教育大系	13
60	ほるぷ出版	数学マイウェイ	8
60	ほるぷ出版	英文「日本大百科事典」	9
61	筑摩書房	ちくま少年図書館	100
61	東大出版	講座「日本思想」	5

皆様の御芳志にたいして、心から厚くお礼を申し上げます。
御芳志を上記の図書にかえて、「同窓会寄贈文庫」の銘を付し、在校生・職員等の閲覧に供してありますことを御報告いたします。

62年5月 高松高校図書館

祝

第5回東京玉翠会総会

第5回東京玉翠会に

ご協力有難うございました

福引景品等御寄贈戴いた方方

(アイウエオ順・敬称略)

朝日生命保険相互会社

株式会社 資 生 堂

西武不動産株式会社

株式会社多田野鉄工所

帝人株式会社

日本ハム株式会社

平川音響株式会社



伊藤忠建機株式会社

取締役社長 大西昭二

建設機械のトータルプランナー

- 本社 東京都中央区日本橋本町1-6-5 (塚本ビル8階)
〒103 TEL (03) 242-5211 FAX. (03) 245-0710
- 大阪支店 大阪市東区北久太郎町4-68 (伊藤忠ビル6階)
〒541 TEL (06) 253-0531 FAX. (06) 253-0536
- 札幌出張所 札幌市中央区北三条西4-1 (第一生命ビル)
〒060 TEL (011) 221-1868 FAX. (011) 221-4916
- 東北支店 仙台市一番町1-1-30 (やまと生命ビル6階)
〒980 TEL (0222) 66-1244 FAX. (0222) 24-8242
- 新潟出張所 新潟市東大通1-3-1 (帝石ビル)
〒950 TEL (0252) 45-7722 FAX. (0252) 41-2105
- 北関東出張所 水戸市見和町3-591-3
〒310 TEL (0292) 52-7333
- 名古屋出張所 名古屋市中区錦1-5-11
〒460 TEL (052) 203-1365 FAX. (052) 203-0140
- 四国出張所 高松市天神前10-5 (セントラルスカイビル)
〒760 TEL (0878) 33-1958 FAX. (0878) 34-1789
- 中国出張所 広島市中区立町1-20 (広島長銀ビル)
〒730 TEL (082) 247-4852 FAX. (082) 249-4942
- 岡山出張所 岡山市下石井2-1-3 (第一生命ビル10階)
〒700 TEL (0862) 26-1510 FAX. (0862) 24-1174
- 福岡出張所 福岡市博多区博多駅中央街8-36 (博多ビル6階)
〒812 TEL (092) 411-3801 FAX. (092) 451-7698



伝統と新しき創造。

TRADITIONAL AND ORIGINAL CREATIONS



モリシゲ本社・工場/〒760 高松市上福岡町355 TEL (0878) 61-0281 FAX (0878) 61-0279
 東京営業所・ショールーム/(03) 532-4350・大阪営業所・ショールーム/(06) 261-5063・北九州営業所/(093) 641-4506
 インテリアモリシゲ西宝町店/(0878) 61-8763 伊藤忠モリシゲ丸亀町店/(0878) 51-3617 リア・モリシゲ/(0878) 34-3151

讃岐の酒米才才セト
 綾川の伏流地下水
 自然の恵みを受けて
 伝統の技が冴える

全国清酒鑑評会
 連続金賞受賞



寛政二年創業
 綾菊酒造株式会社

香川県綾歌郡綾上町山田下三三九番地の一
 ☎〇八七八-七八-二二二二

大河への挑戦!

日本ハムは、総合食品企業としての体制を整え、大河への挑戦をつづけます。

古来より、人と暮らしを潤してきた大河。そんな壮大な流れを築こうと、

いま、北海道から沖縄、そして海外を含めて180社の日本ハムグループは、

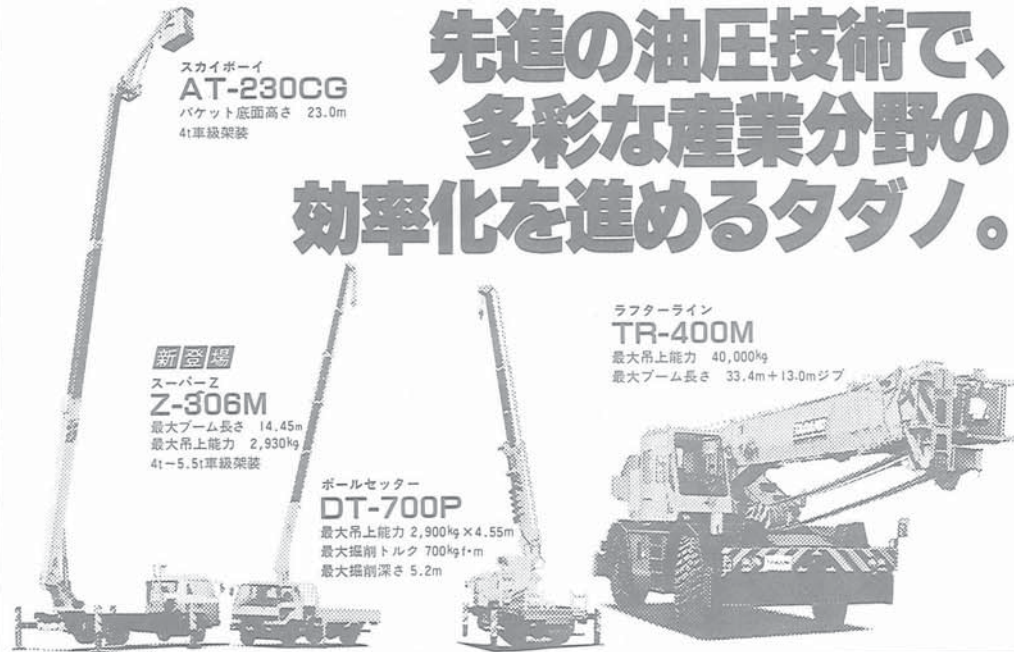
それぞれの分野で「大河への挑戦」をつづけています。すでに、その体制づくりは着々と進行していますが、グループ全体が一丸となって、「幸せな食創り」に貢献できるよう、日本ハムはこれからも努力いたします。



取締役社長 大社義規



先進の油圧技術で、 多彩な産業分野の 効率化を進めるタダノ。



スカイボーイ
AT-230CG
バケット底面高さ 23.0m
4t車級架装

新登場
スーパーZ
Z-306M
最大ブーム長さ 14.45m
最大吊上能力 2,930kg
4t-5.5t車級架装

ボールセッター
DT-700P
最大吊上能力 2,900kg x 4.55m
最大掘削トルク 700kgf・m
最大掘削深さ 5.2m

ラフターライン
TR-400M
最大吊上能力 40,000kg
最大ブーム長さ 33.4m + 13.0mジブ

TADANO

株式会社 多田野鉄工所
営業本部 / 東京都港区浜松町2丁目4番1号
世界貿易センタービル30F TEL. 03(435)3611 代表

お問い合わせは、お近くの当社支店までどうぞ
北海道(札幌)011(86)9030 東北(仙台)022(257)4556 関東(大宮)0486(41)3621(東京)03(699)1441/岡崎東(横浜)045(20)8771/北陸(富山)0764(36)1555/名古屋0566(76)1181/大阪06(746)8731/西国(高松)0878(38)5777/中国(広島)082(884)0255/九州(福岡)092(503)7821

ムリなく、
確実に進む。
旅の標(トポム)。



旅行券分割前払いシステム

と き め き

- お支払いは月々3,000円から
- お支払い期間は6ヶ月~24ヶ月
- 〈詳細については、東急観光営業所へ〉

豊かな感情のステージへ
東急観光(株)京橋営業所

中央区京橋2-5-21
TEL 03(561)9501

JEWEL-BOX データベース型紙器用CAD/CAM

20年以上の使用に耐える言語 ソフトレンタル1万円/月

超低価格236万円(通信装置・プロッター・プリンター含)



株式会社 エル・シー・シー
(山本)

〒123 東京都足立区梅田6-26-6
TEL03-840-9461 FAX03-840-9445

- レーザー加工 24時間稼動!

代表取締役 占部 聡 長
(高高38年卒)

祝

第5回東京玉翠会総会

- 朝国太啓子 (朝国万象公会堂)
(泉川)
- 植村 忠彦 (アスク)
- 小笠原ユキ子 (高松商業高等学校)
(森谷)
- 小川 実 (高松琴平電気鉄道)
- 小川 誠 (ショウセキ工業)
- 亀井 匡 (大阪バンドーベルト販売)
- 楠 友子
(三井)
- 後藤 節子
(大橋)
- 小松 縫子
(村上)
- 須田 勉 (扶桑建設工業)
- 西井 純子
(永尾)
- 板東 桂子 (板東眼科医院)
(学板)
- 松家 成介 (学習塾経営)
- 渡辺トシ子
(稲毛)
- 関東在住有志一同

(高高38年卒)

鹿島石油(株)

〒102 東京都千代田区紀尾井町3-6
☎ 03-265-0411

ニーズに応える確かな技術

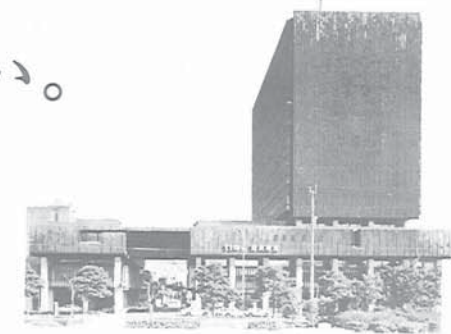
新潟鉄工

本社 東京都千代田区霞が関1-4-1 〒100 電話(03)504-2111

確かな明日へ
信頼のお手伝い。

百十四銀行

東京支店/東京都中央区日本橋3丁目8-2
☎ (271) 1281
新宿支店/東京都新宿区百人町2丁目1-2
☎ (209) 0114
青山支店/東京都港区北青山3丁目5-12
☎ (478) 0114



(財)日本生産性本部

〒150 東京都渋谷区渋谷3-1-1
☎ 03-409-1111

株式会社 カツミ堂写真機店

〒104 東京都中央区銀座5丁目9番1号

日曜・祭日営業

☎ 03(571)0468(代)



カツミ写真機店



株式会社 岩本組

代表取締役 藤沢恒代

東京都北区田端2-3-16-101 TEL(03)823-3161(代)

あなたの投資戦略に
ホットな情報を。

ふやす時代のパートナー

日本勧業角丸証券

本店：東京都千代田区丸の内1-6-1 ☎03(286)7111
営業網：全国主要都市71店舗 海外：12拠点

英文印刷物の編集・製作を
お手伝いいたします！

会社案内、商品説明書、アニュアル・レポート、社史、
ニュース・レター、英文プレス・リリース、国際会議の
ニュース・プレティンなど、各種印刷物の製作。

ジャパン タイムズ 受託事業部

〒108 東京都港区芝浦4丁目5番4号 電話(03)453-5311(内線231)

センチュリー証券

取締役社長 野崎博通

(高中44回卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町2-4

☎ 03-667-0371

岡田輝彦 公認会計士 事務所

所長 岡田輝彦

(高中44回卒)

☎03(263)0856 (代表)

〒102 東京都千代田区麴町1丁目3番地 (麴町1丁目3番地ビル)



日本塩回送株式会社

代表取締役 平井健吉

(高中23回卒)

東京都港区南青山3-18-7 ☎ 03(403)5471 (代表)

工業用ゴム製品・合成樹脂製品

極東産業株式会社

取締役社長 中村文俊

(高中50回卒)

〒105 本社 東京都港区新橋5-10-5 ☎ 03(433)4761(代)

●モービル石油株式会社代理店●共同石油株式会社代理店●松下電器産業株式会社代理店

横井石油株式会社

真鍋真吾 (高高38年卒)

本社 〒762 香川県坂出市入船町一丁目1番2号 ☎0877-46-0451(代)
781-21 高知県吾川郡伊野町一ノ坪 ☎0888-92-0292
〒780 高知県高知市小津町1番5号 ☎0888-75-4701

東京税理士協同組合、東京地方税理士協同組合、埼玉税理士共栄会 専属

株式会社 日税不動産情報センター

《一級建築士事務所》

〒160 東京都新宿区西新宿7丁目10番7号 (加賀谷ビル7階)

テレホンサービス(03)363-2222(代)



電話のたびによみがえる
今日の感動……

フリーデザインテレホンカード制作・販売

HACL 平川音響株式会社
〒160 東京都新宿区西新宿8-5-4 北新成子坂ビル601 ☎(03)371-7641 (代表)

楽しい出合いをハイパフォーマンス

近畿日本ツーリスト

Ⓢ運輸大臣登録一般旅行業務第20号

西川紀男法律事務所

弁護士 西川紀男
(高高34年卒)

事務所 港区赤坂3丁目2番6号 パゴダビルディング6階
☎ (587) 1841 (代)

日本鋼管株式会社 特約店

三井石油化学工業株式会社 総代理店
三星産業株式会社

東洋興発株式会社

代表取締役 大熊伸
(高高34年卒)

○土木資材各種販売、施工 ○不動産業務

〒272 千葉県市川市南八幡4-5-20
☎ 0473 (78) 7455~6

一級建築士事務所

株式会社 シバ設計

所長 柴原力
一級建築士
(高高34年卒)

事務所 渋谷区道玄坂1-15-3-319
☎ 476-4371 (代)

⊗ 超音波株式会社

本所 東京都中央区銀座4丁目5番1号
(教文館ビル4階)

〒104 電話(03)564-6191番(代)

FAX(03)567-0487番

厚木事業所 伊勢原市小稲葉13番1号

〒259-11 電話(0463)96-0431番(代)

FAX(0463)96-1065番

営業品目

■設計 ■製作 ■据付

一般骨材生産工場濁水処理装置
ダム建設用骨材生産工場濁水処理装置
トンネル工事濁水処理装置
泥水加圧式シールド工事濁水処理装置
リバース、地下連続壁工事濁水処理装置
その他 公害防止関連機器

株式会社 昭和興産

代表取締役 藤本 烈
(高高30年卒)

〒107 東京都港区赤坂6-6-28
TEL (586) 2856

フジカナ工産業(株)

代表取締役 矢野 裕
(高高30年卒)

〒107 港区赤坂6-6-28
☎ 03-586-2856

近藤和彦会計事務所

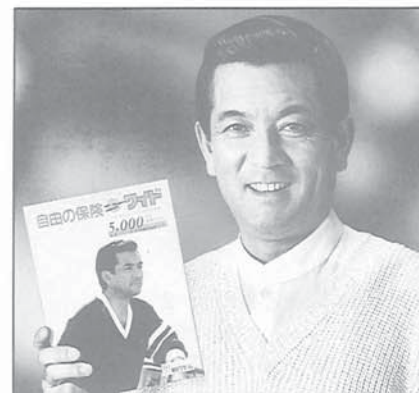
税理士
近藤 和彦
(高高30年卒)

〒110 台東区上野5-15-12 原ビル4F
☎ 03-835-0025

祝

第5回東京玉翠会総会

東京晚翠部会



ほくは、ニューワイド。

今日の積み重ねが、確かな将来を約束します。だから、ニューワイド、ほくの自信です。

自由の保険 **ニューワイド**
定期保険特約付普通終身保険

100周年 輝く未来へおめでとう
朝日生命
本社 〒163-91 東京都新宿区西新宿1-7-3
☎03(342)3111(大代表)

建設機械

一筋に
63年

建設機械・機材・建材・器具
簡機械工業株式会社

- 本社 〒550 大阪市西区南堀江3丁目9番27号 電話 06(541)7931(代表) FAX 06(541)6198
- 大阪支店 〒101 東京都千代田区三崎町3丁目10番5号 電話 03(263)1531(代表) (第三原島ビル) FAX 03(265)9824
- 名古屋営業所 〒450 名古屋市中村区名駅南3丁目14番9号 電話052(581)4316(代表) FAX 052(581)4319
- 京都営業所 〒615 京都市右京区西院平町25番地 電話075(314)4460(代表) (京都東商ビル4階) FAX 075(314)4462
- 福岡営業所 〒812 福岡市博多区博多駅東1丁目9番15号 電話092(431)7181(代表) FAX 092(411)7047

矯正歯科

渋谷・道玄坂

山田矯正歯科クリニック

◎矯正歯科・一般歯科 土・日・祝日休診

院長 山田 勲 (昭和32年卒)

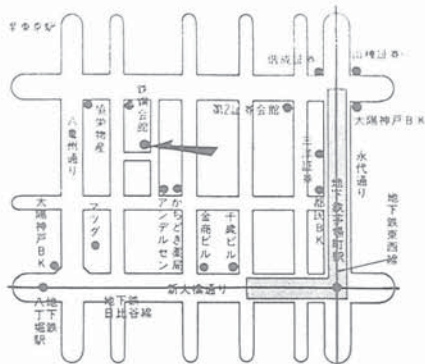
渋谷区道玄坂2-28-4 井門インターナショナル6F

☎464-1166(代)

宮武医院

宮武 治郎
(高高32年卒)

〒192 八王子市片倉町1221-26 ☎ 0426-36-8317



やきとり 鳥 仲

中野京子 (旧姓 渡辺)
(高高38年卒)

中央区日本橋茅場町3-2-3
邦山堂ビル
TEL 03-661-8748

首都圏唯一の郷土情報誌を推せんします

讃岐公論

発行所 東京都江東区辰巳2-5-1-1102
讃岐公論社 (TEL 03-522-0826)
社主 村尾 薫 (高中28回卒)
定価400円 (半年分2,500円 1年分5,000円 送料共)

本誌は創刊60年を超える伝統ある郷土月刊誌です
殊に「香川県だより」は、同窓生はじめ購読者の間で
大変好評です。ご存知ない方は是非一読を!!

東京玉翠会有志一同

ふる里の味 自然の味

全国各地へ発送いたします

天ぷら・かまぼこ・からすみ
鯛の浜焼・鱈の味噌漬

魚 徳 本 店

高松市片原町 TEL 0878(21)3530
FAX 0878(21)2733

自費出版等 印刷のことなら お気軽に声をかけて下さい

—— 自叙伝、社誌等は原稿がなくても本になります ——

当社のスタッフが原稿作成時よりお手伝い

☎ 433-1481

印刷の総合センター 株式会社 三州社

〒105 東京都港区芝大門1-1-21

井関賢治 (高高29年卒)

栗田俊彦 (")

山本・丸島法律事務所

弁護士 山本 隆夫
(高高38年卒)

事務所 東京都台東区上野3丁目13番9号珠和ビル3F
☎ (03)834-7021(代) FAX (03)833-4285

祝 第5回東京玉翠会総会

日新タクシー株式会社

代表取締役 古竹 久雄 (高高30年卒)
常務取締役 藤沢 晶 (高高38年卒)

本 社 / 〒760 高松市天神前9番12号 ☎(0878)61-2344(代)

自動車機器
油圧機器 製造
鉄道車輛機器

三輪精機株式会社

〒338 埼玉県与野市中里80番地
☎ 0488-31-6191 (大代表)

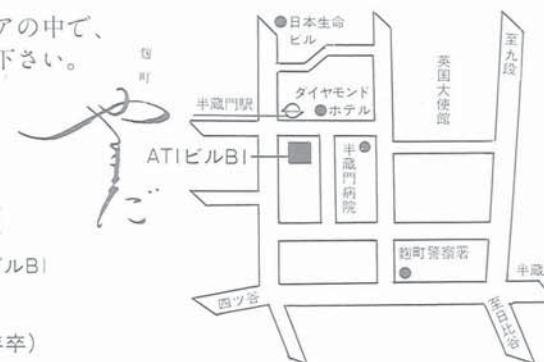
麴町の一等地。洒落た欧風インテリアの中で、
懐石料理の豊かな味わいをお楽しみ下さい。

●営業時間● 11:30AM ~ 2:00PM
5:30PM ~ 10:00PM
日曜日・祝祭日・休業

地下鉄半蔵門出入口No.4より徒歩1分

〒102 東京都千代田区麹町1-8 ATIビルB1
PHONE: 03-221-0505

山田 勲 (高高32年卒)



パブ キララ (昼の部)

鈴木新子
(高高28年卒)

中央区銀座7-3-13
ニューギンザビル2F
TEL 571-1059

日本橋店 東京都中央区八重洲一丁目三番八号 電話(二七四)三五〇三番(代表)
京橋店 東京都中央区京橋二丁目十一番一〇号 電話(五六七)五八五〇番
銀座店 東京都中央区銀座四丁目九番五号 電話(五四二)〇八六一番(代表)
田町店 東京都港区芝五丁目三十三番七号 電話(四五四)四六一一七三番七号
御殿場店 静岡県御殿場市東田中字便船塚 電話(四五四)四六一一七三番七号
サンプラザ・ゴテンバ 静岡県静岡市東田中字便船塚 電話〇五五〇(三三)一七三七番

讃岐茶屋

手打うどんと季節料理の店

ふるさと 讃岐の味
手打うどん
うどんすき
季節の料理

金比羅

(七宝産業株式会社)

浜松町店 東京都港区浜松町3-1 TEL 03-432-1047
西船橋店 西武百貨店船橋店内
泰州店 オーストラリア ケアンズ パラダイスホテル内
姉妹店 山梨県都留市大幡舟井沢3036 中央部信カントリー倶楽部内 TEL 05544-5-1261

クラス会、各種会合、ご家族連れでお気軽に御利用下さい。
ご予算に応じます。
お座敷は20名様位迄ご利用いただけます。

瀬戸内海放送

KSB

代表取締役社長 加藤芳宏

(高高29年卒)

本社・スタジオ 〒760 高松市西宝町1丁目5番20号
☎高松(0878)62-1111(代表)
岡山総局・東京支社・大阪支社・倉敷支社

医薬品・医療用品総合販社
東鳴株式会社

専務取締役 工藤政尚 (高高27年卒)

東京都足立区千住旭町7番25号
電話 東京03(879)代表2211 〒120

祝第5回東京玉翠会

本の専門店 鎌倉目耕堂

末沢和子 (高高27年卒)

〒248 鎌倉市小町2-10-1
電話 (0467)-23-0331

東高化成株式会社

取締役社長 増田陽三
(高高26年卒)

本社 東京都中央区京橋2-6-16(エターナルビル)
TEL 03(563)6271(代表)
FAX 03(563)6278〒104
大阪支店 大阪市東区淡路町2-40-4(弘栄ビル)
TEL 06(222)2861(代表)
FAX 06(222)2863〒541

藤井法律事務所

弁護士 藤井富弘
(高高26年卒)

〒105 東京都港区新橋4-31-7 中村ビル3階
TEL 431-2267
431-2304
FAX 431-2365

オガワ歯科医院

小川 淳
(高高29年卒)

小田急読売ランド駅前
川崎市多摩区西生田3-7-22
TEL 044-955-0558

お気軽にお立寄り下さい

スナック

KIEN'S

東京都港区赤坂2-10-5(小松製作所裏)
☎(03)583-1038


代表取締役
杉山緑一郎
(高高38年卒)
〒761-01 高松市春日町一六〇六番地
電話(〇八七八)四一三三六一(代)

株式会社紙の杉山

代表者 内山 忠
高松市古馬場町八一三四
TEL(01)六五五五
(香川県調理士会会長)
(高高29年卒)



<p>珪素産業株式会社</p> <p>取締役社長 宗本 徳 禪 (高中37回卒)</p> <p>東京都杉並区成田西1-17-8 ☎ 03(313)6505</p>	<p>山本亮一特許事務所 (高中37回卒)</p> <p>内外国・特許・商標・審判・鑑定</p> <p>〒103 東京都中央区日本橋本町4-9(永井ビル)</p> <p>☎ 03(270)0858-9 TELEX: 02226632 SANPATJ</p>
<p>— 旅行のご用命は —</p> <p>  </p> <p>海外旅行企画株式会社 TRAVEL PLAN INTERNATIONAL (運輸大臣登録一般旅行業第44号)</p> <p>〒107 東京都港区赤坂4丁目9番25号 新東洋赤坂ビル 電話 03(403)8111(代表) 代表取締役 高坂 篤 (高中51回卒)</p>	<p>ケイ・エム・エンジニアリング株 シールド工事用プラントエンジニアリング</p> <p>代表取締役社長 松 下 信 次</p> <p>〒120 東京都足立区加平1-9-5 電 話 03(628)3835</p>
<p>大西昭一郎法律事務所</p> <p>弁護士 大西 昭 一 郎 (高高33年卒)</p> <p>千代田区丸の内3-1-1 国際ビル727区 ☎ 03-212-0841(代表)</p>	<p> 株式会社エイデザインセンター 〒116 東京都荒川区町屋1-4-9 TEL: 03-809-0591 FAX: 03-895-5367</p> <p>代表取締役 井上 榮 (高高33年卒)</p> <p> 井上美術印刷株式会社 〒116 東京都荒川区町屋1-4-9 TEL: 03-819-0821(代)</p>
<p>税理士 山口 修 事務所</p> <p>税理士 山 口 修 (高高33年卒)</p> <p>事務所 東京都北区赤羽1-37-13 城北ハイツ205 ☎ (903)4111</p>	<p>シール・ラベル } 製造販売 各種メンバーズカード }</p> <p>株式会社 / ヤシ</p> <p>代表取締役 林 征 一 郎 (高高33年卒)</p> <p>〒104 東京都中央区八丁堀2-1-10 林ビル ☎ (03)553-1811</p>

<p>日本マンパワーは、 人材開発の専門機関です。</p> <p>事業案内</p> <p>☑CDS関連各種事業 ☑通信教育事業 ☑人材紹介事業 ☑ビジネススクール ☑各種テスト事業 ☑企業内教育企画事業</p> <p>人材開発とキャリアプランのマンパワー</p> <p>取締役社長 小野 憲 (高高25年卒)</p> <p></p> <p>〒107 東京都港区赤坂4-8-14 ☎03-470-3111 本社 東京 支社 関西・中部・九州・札幌・広島</p>	<p>植 松 武 彦 (高高31年度)</p> <p>帝人株式会社 ☎ 03(506)4520</p>
<p>濱田法律事務所</p> <p>濱 田 清 (高高32年卒)</p> <p>〒102 千代田区平河町1の8の2 山京半蔵門パレスビル604 TEL 03-221-6261</p>	<p>足立・ヘンダーソン・宮武・藤田法律事務所</p> <p>弁護士 宮武敏夫 (高高31年卒)</p> <p>〒100 千代田区大手町2-3-6 タイム・ライフビル ☎ (270)7461</p>
<p>スナック アイビー</p> <p>渡 辺 浩 (高高31年卒)</p> <p>豊島区東池袋1-41-14 ☎ (983)2720</p>	<p>手造り、焼立てのパン ピーターパン - 宮店</p> <p>一宮町郵便局前 TEL 86-4038</p>
<p>建設コンサルタント(下水道部門)</p> <p>日新技術株式会社</p> <p>代表取締役 恵比須 忠 (高高42年卒)</p> <p>〒160 東京都新宿区百人町1-6-15 ヤナギヤビル TEL (200)9269(代)</p>	
<p>ソフトウェアの新世代を創造する — リサーチ&ディベロップメント専門企業 —</p> <p>ソフトウェアジェネレーション(株)</p> <p>代表取締役 木村 昭 二 (昭和32年卒)</p> <p>〒102 千代田区飯田橋1-7-10 山京別館 7F TEL 03-234-5638</p> <p>◀ 技術者募集中 !! ▶</p>	



まなべ光店 (高高33年卒)

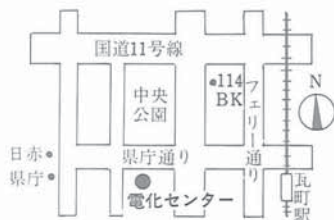
事務所 〒760 高松市今里町347番地
TEL (0878)67-5500 (代)

ALTA
MODA
MANABE

株式会社 **まなべ** 洋装店

真鍋 幸子 (高高38年卒)

高松市丸亀町14番地の4
☎ <0878> 51 - 4284(代)



アマチュア無線・家電・パーツ・マイコン・オーディオ

(株)電化センター

代表取締役 佐藤 康弘 (高高38年卒)
高松市天神前4-35 ☎ 62-6077 (代)

株式会社 大東繊維

製造発売元

DT型

ユニホーム

代表取締役 末沢 信夫 (高高27年卒)

専務取締役 堺 淳一 (高高27年卒)

- | | | |
|--------|------------------|---------------------|
| 本社 | 神奈川県座間市立野台305 | TEL 0462-51-5159(代) |
| 相武台支店 | 神奈川県座間市相武台1-81 | TEL 0462-55-7493(代) |
| 大和支店 | 神奈川県大和市下鶴間1742 | TEL 0462-76-5647(代) |
| 藤沢支店 | 神奈川県藤沢市用田南原489-5 | |
| 相模原営業所 | 神奈川県相模原市南台2-3-3 | TEL 0427-46-4400 |
| 新宿営業所 | 東京都新宿区諏訪町75 | TEL 03-202-7144 |

営業品目

作業服、事務服、白衣、無塵衣、防寒衣、ジーンズ、カジュアルウェア
安全靴、作業靴、無塵靴、ヘルメット、保安用品、雨衣、長ぐつ、地下タビ
職人用ニッカ、七分、手甲、軍手、軍足、シート、他工場用品全般

髙松合同企画

〒761 高松市三条町 336 番地 2
TEL (0878)67-0088(代)・FAX 65-4546

藤川 吉洋 (高高39年卒)

株式会社 ハスイ酒店

〒760 高松市瓦町 1 丁目12の23
TEL <0878>34-0505(代)

蓮井 愛子 (高高39年卒)

木材、新建材販売

丸一林産有限公司

代表取締役 玉置 正 (高高37年卒)

高松市上天神町128 電話 (0878)67-1313(代)

株式会社 ダイナックス高松

〒760 高松市番町3-6-15コルソ番町1302
TEL (0878)31-8222
FAX (0878)37-2078

大和田 昭邦 (高高39年卒)

株式会社 イシハラ

石原 弘毅
(高高37年卒)

坂出市西庄町999-4
TEL 0877-46-3503

祝

第5回東京玉翠会総会
東京山麓会

高高36年卒有志一同

選抜大会御声援
ありがとうございました

株式会社 エーブル

代表取締役 芝草 克久
(高高37年卒)

〒330 埼玉県大宮市宮町3-1
大泉ビル
☎ 0486-44-5172

阿比留・岡崎・大橋法律事務所

弁護士 岡崎 洋
(高高37年卒)

〒101 東京都千代田区神田淡路町1-9
ニューお茶の水402号
☎ 03-252-6866 (代表)

株式会社 平田呉服店

平田 廣 (高高37年卒)

店舗 高松市丸亀町7-8 〒760 電話 (0878) 51-3200 (代表)
自宅 高松市番町3丁目18-18 電話 (0878) 31-3922

<p>司法書士 合同事務所 土地家屋調査士</p> <p>司法書士 新藤勝利 (高高38年卒)</p> <p>事務所 高松市郷東町7-1 TEL (0878)82-2306</p>	<p>創業八十年</p> <p>料亭 新常磐</p> <p>代表取締役 高関忠三 (高高38年卒)</p> <p>高松市錦町1-18-24 TEL(0878)21-6131</p>
<p>有限会社 永和技研</p> <p>代表取締役 荻田武憲 (高高38年卒)</p> <p>〒761-07 香川県木田郡三木町大字池戸深谷甲 TEL (0878)98-3831 FAX 98-3317</p>	<p>ヤママー農機株式会社代理店 妹尾農機株式会社</p> <p>専務取締役 妹尾博文 (高高38年卒)</p> <p>香川県木田郡三木町池戸2843-8 TEL (0878)98-1525 営業所 高松・川島・大川</p>
<p>四宮医院</p> <p>院長 四宮陽一 (高高38年卒)</p> <p>高松市西植田町1540 TEL (0878)49-0201</p>	<p>石橋紀明 (高高38年卒)</p> <p>〒760 高松市番町3-14-4</p>
<p>いずみ内科医院</p> <p>和泉英彦 (高高38年卒)</p> <p>〒760 高松市高松町1689 TEL (0878)43-1115</p>	<p>歯を大切に 大西歯科医院</p> <p>大西博子 (高高38年卒)</p> <p>香川県綾歌郡国分寺町福家(琴電岡本駅近く) TEL 74-1194</p>
<p>内科・循環器科・小児科</p> <p>藤本医院</p> <p>院長 藤本俊夫 (高高38年卒)</p> <p>高松市郷東町11-19 (エイコー郷東店南隣) TEL (0878)81-2608</p>	<p>外科胃腸科・肛門科・整形外科・理学診療科</p> <p>三好外科胃腸科医院</p> <p>院長 三好恵一 (高高38年卒)</p> <p>高松市亀田町 TEL (0878)47-8888</p>
<p>救急・労災指定病院 外科・整形外科・内科・小児科・肛門科・麻酔科・循環器科・理学診療科</p> <p>オサカ病院</p> <p>森川信子 (高高38年卒)</p> <p>香川県香川町浅野272 ☎ 89-0703(代) 有線 2570</p>	

<p>別注・修理・調整・輸入クラブ専門店</p> <p>シリアンスポーツ</p> <p>〒760 香川県高松市福岡町2丁目27-1</p> <p>野口義博 (高高38年卒) ☎ (0878)22-1414</p> 	<p>扇屋株式会社</p> <p>谷本裕 (高高38年卒)</p> <p>本社: 高松市塩屋町11番地5 〒760. TEL 0878-22-1500(代)</p> <p>大阪支店: 大阪市東区本町5丁目15-7(細井ビル) TEL 06-245-4655</p>
<p>定額預金などは 高松番町郵便局</p> <p>局長 富岡弘 (高高38年卒)</p> <p>〒760 高松市番町2-4-8 (高松高校北側) TEL (0878)51-9902</p>	<p>大和生命保険相互会社</p> <p>高松支社長 田村剛 (高高38年卒)</p> <p>〒760 高松市丸の内10-1 TEL 0878-51-2528</p>
<p> 山内石油株式会社 山内石油商事株式会社</p> <p>山内康生 (高高37年卒)</p> <p>本社 〒760 高松市栗林町1丁目9番1号 ☎ 34-3232 (代)</p>	<p>平和石油株式会社 高松支店</p> <p>取締役支店長 藤田雅敏 (高高38年卒)</p> <p>支店 〒760 高松市番町5丁目6-26 TEL (0878)31-7255~6</p> <p>本社 〒530 大阪市北区中之島3丁目6-32 TEL (06)443-2771~6</p>
<p>ART STUDIO GROVE</p> <p>アートスタジオグループ</p> <p>〒761 高松市一宮町1628-1 TEL(0878)86-7824 FAX(0878)86-7940</p> <p>宮脇美子 (高高38年卒)</p>	<p>三好歯科医院 MIYOSHI DENTAL CLINIC</p> <p>三好正弘 (高高38年卒) 美代子</p> <p>〒760 高松市福岡町2丁目29-30 TEL (0878)22-2542(代)</p>
<p>●優良家具販売チェーン全国一の大量 協同仕入れ瀬戸内フアンチャー グループ ●建設省指定店●</p> <p>サトウ家具</p> <p>高松市松島町2丁目 ☎62-2133(代)</p> <p>佐藤薫 (高高34年卒) 斐子 (高高38年卒)</p>	<p>不動産売買仲介 有限会社 石原土地電話店</p> <p>代表取締役 取引主任 石原和夫 (高高38年卒)</p> <p>〒760 高松市松島1丁目8-1 TEL (0878)31-3202 FAX (0878)33-0606</p>
<p>テント・シート・イベントレンタル&土木工事用合繊資材</p> <p>株式会社 イシハラ</p> <p>本社工場 〒761 高松市香西南町358の1 TEL (0878)82-2231(代) FAX (0878)82-8822</p> <p>坂出営業所 〒762 坂出市西庄町999の4 TEL (0877)46-3503(代) FAX (0877)46-9702</p> <p>高松営業所 〒760 高松市瓦町2丁目7の11 TEL (0878)61-6833(代) FAX</p> <p>石原英輝(34卒) 石原弘毅(37卒) 石原久子(38卒) 石原裕三(61卒)</p>	

<p>前田勇税務会計事務所 税理士 前田 勇 (高高38年卒) 事務所 〒102 東京都千代田区九段北4丁目1番5号 市ヶ谷法曹ビル807号 電話 03(265)9471番(代) 自宅 〒191 東京都日野市平山2丁目14番地6 電話 0425(92)7760番</p>	<p>YONTEC 株式会社 ヨンテック 建材部 取締役部長 磯崎 登志男 (高高38年卒) 〒761 本社 / 高松市成合町930番地10 TEL (0878)86-6135 FAX (0878)86-6135(G2Mモード) 〒790 松山事務所 / 愛媛県松山市宮田町 TEL (0899)32-0935</p>
--	--

<p>三和銀行高松支店 赤松 俊子 (高高38年卒) 〒760 高松市紺屋町9番地の6 電話 (0878)51-3030</p>	<p>医科器械理化学器械病院設備機器 四国医療器 高松市錦町 TEL ⑤ 3318(代) 代表取締役 尾形嘉紀 (高高28年卒) 岡田幸子 (高高38年卒)</p>
--	---

四国讃岐名物手打うどん (株) さぬき屋

三嶋満代 (旧姓 藤塚) (高高38年卒)

鴨居駅前店	緑区鴨居駅前ビル内 ☎ (045)934-1813
鴨居店	緑区東本郷団地前 ☎ (045)471-9778
千丸台店	保土ヶ谷区千丸台団地前 ☎ (045)381-3277
成瀬店	町田市成瀬駅前ハイツ ☎ (0427)27-0184

→ Uターン人財募集!!

<p>川崎達夫法律事務所 弁護士 川崎 達夫 (高高43年卒) 〒760 高松市亀岡町3-3 TEL (0878)31-3333 FAX 31-8726</p>	<p>公認会計士 三好貴志男事務所 公認会計士 三好 貴志男 (高高43年卒) 〒760 高松市番町5-1-24(観光ビル) TEL (0878)31-3711(みないっ) FAX 31-3714</p>
--	---

<p>真弓 内科 呼吸器科 循環器科 医院 院長 真弓 哲二 (高高38年卒) 高松市塩上町二丁目2番6号 TEL 35-2321(代)</p>	<p>測量・設計 SR 瀬戸 代表者 村上義則 (高高38年卒) 〒761-04 高松市由良町611番地4 TEL (0878) ⑧ 1128 ⑧ 1751</p>
--	--

<p>石川外科胃腸科医院 医学博士 石川 喜久 (高高38年卒) 〒760 高松市松縄町348-3 TEL (0878)67-1000</p>	<p>大宝興業株式会社 代表取締役 国東照美 (高高38年卒) 〒760 高松市番町1-2-25 TEL (0878)51-3575</p>
---	--

Challenge in The Future

GODA



株式会社 合田工務店

代表取締役 森田 紘一 (高高38年卒)

- 本社……高松市天神前7番5号 TEL 0878(61)9155(代) FAX 0878(37)2604
- 東京支店……東京都港区芝浦3丁目13番1号 TEL 03(454)6561(代) FAX 03(455)8896
- 千葉営業所……千葉県鎌ヶ谷市初富21番地21 TEL 0474(43)0654
- 丸亀営業所……丸亀市原田町2182番地1 TEL 0877(24)3355(代) FAX 0877(23)4067
- 観音寺営業所……観音寺市本大町1608番地 TEL 0875(25)0005(代) FAX 0875(25)7710

関連会社 **株式会社 合田不動産** 観音寺市本大町1608番地 ☎0875(25)1436(代)

Murasaki

TOKYO·NEW YORK·PARIS·MILANO

色が香りになった 紫のあでやかさ



世界で匂いたつ 日本の優雅



資生堂むらさき

- パルファム……………10,000円
- オードパルファム……………3,000円
- オードパルファム(ピュアミスト)……………3,500円